

「盛岡市の農業に関する意向調査」
報告書

令和4年9月
盛岡市

目 次

第 1	調査の概要	1
第 2	調査回答者（農業経営者）の属性	3
	(1) 性別	3
	(2) 年齢	3
	(3) 地域	4
第 3	調査結果	6
1	経営について	
	(調査結果からみる傾向)	6
	(1) 農業経営について（専兼業別）	7
	(2) 取り組んでいる部門について	9
	(3) 経営について	11
	(4) 集落・地域での位置づけについて	13
	(5) 農業後継者について	15
	(6) 補助労働力（臨時雇用、アルバイト）について	17
	(7) 5年後の農業経営について	18
	(8) 規模縮小（離農）の理由について	20
	(9) 今後の経営に必要な取組について	22
2	今後の地域の農業について	
	(調査結果からみる傾向)	25
	(10) 10年後の状況について	26
	(11) 地域農業を維持するために必要な取組について	28
	(12) 青年就農者（新たに就農する若い人）について	30
3	6次産業化（農商工連携）に関する取組について	
	(調査結果からみる傾向)	32
	(13) 6次産業化（農商工連携）の取組状況について	33
	(14) 販路について	35
	(15) 販路について（希望先）	37
	(16) 販売の際の工夫点について	39
	(17) 6次産業化（農商工連携）に関する情報収集先について	41
第 4	調査票	43

第1 調査の概要

① 調査の目的

市内農業者の現状や今後の見込み、また、農業政策や6次産業化に関する意識を調査し、市のこれからの農業のあり方や農業施策に関する基礎資料とすることを目的としています。

② 調査の設計

調査対象	盛岡市域の農地を所有する世帯の世帯主 (令和4年3月9日現在の盛岡市の農家台帳から抽出)
標本数	4,927人
調査方法	アンケート
調査期間	令和4年6月30日(金)から7月29日(金)まで(集計対象8月31日)

③ 調査の内容

設問		調査項目
経営について	問1	農業経営について(専業、兼業)
	問2	経営体に取り組んでいる部門について(収入が多い順3つ)
	問3	農地の所在地について
	問4	経営について(家族、請負、委託)
	問5	集落・地域での位置づけについて
	問6	農業後継者について
	問7	補助労働力(臨時雇用、アルバイト)について
	問8	5年後の農業経営について
	問9	拡大規模について
	問10	規模縮小(離農)の理由について
	問11	貸したい農地について
	問12	5年間の農地転用計画について
	問13	今後の経営に必要な取組について
今後の地域の農業について	問14	10年後の状況について
	問15	地域農業を維持するために必要な取組について
	問16	青年就農者(新たに就農する若い人)について
6次産業化(農商工連携)に関する取組について	問17	6次産業化(農商工連携)の取組状況について
	問18	販路について
	問19	販路について(希望先)
	問20	販売の際の工夫点について
	問21	6次産業化(農商工連携)に関する情報収集先について

④ 回収結果

対象者数	4,927人
有効回収数	2,105人
回収不能数	2,822人
有効回収率	42.7%

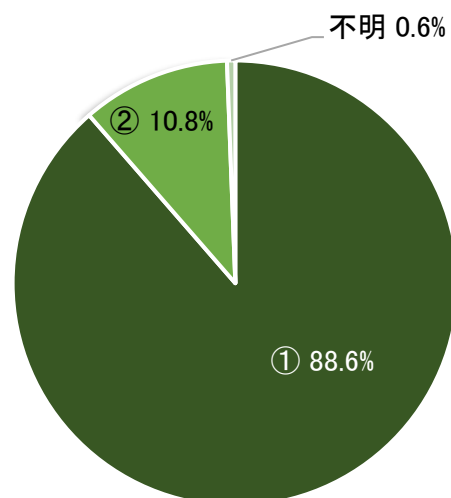
⑤ 報告書の見方

- ・比率（％）は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ・集計結果は全て、小数点第2位を四捨五入していますので、比率の合計が100.0%ではない場合があります。
- ・複数回答を依頼している設問の比率の合計は100.0%を超えます。
- ・設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合があります。
- ・依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ・無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ・前回調査結果との比較は、平成29年9月に実施した「盛岡市の農業に関する意向調査」との比較です。
- ・「属性別」のグラフにおいて、回答者数と各属性（年齢、地域など）の回答数が不一致となっておりますが、これは各属性の不明回答を除いているためです。

第2 調査回答者（農業経営者）の属性

(1) 性別（回答者数 2,105人）

性別	回答者数(人)	構成比(%)
①男性	1,866	88.6
②女性	227	10.8
不明	12	0.6



(2) 年齢（回答者数 2,105人）

① 年齢別

「70代」が最も多く、8割強が「60歳以上」となっています。

年齢	回答者数(人)	構成比(%)
①20代以下	1	0.0
②30代	7	0.3
③40代	58	2.8
④50代	185	8.8
⑤60代	696	33.1
⑥70代	750	35.6
⑦80歳以上	361	17.2
不明	47	2.2

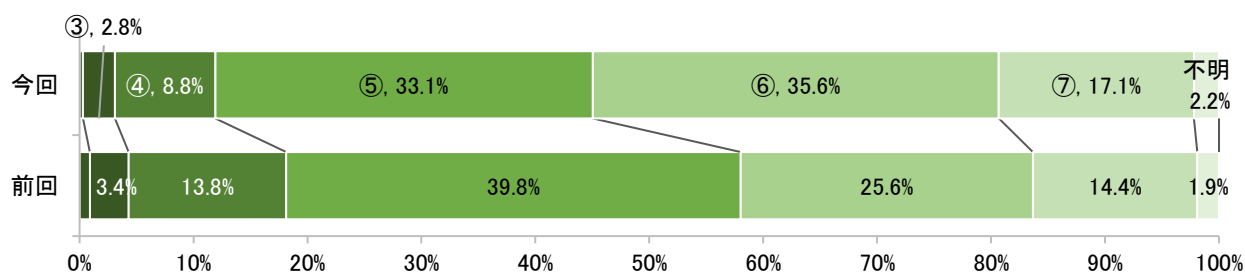
② 平均年齢

平均年齢は、「70.3歳」となっています。（不明47を除く。）

（前回調査結果との比較）

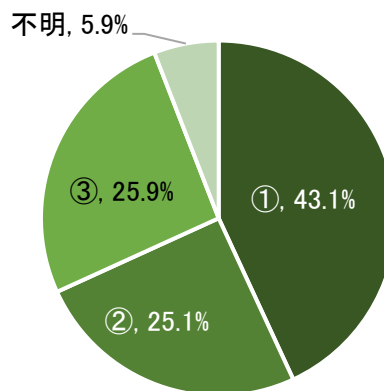
70歳未満の各年代の割合が減少する一方、70歳以上では上昇しています。

なお、前回調査における農業経営者の平均年齢は、「67.9歳」となっています。



(3) 地域（回答者数 2,105人）

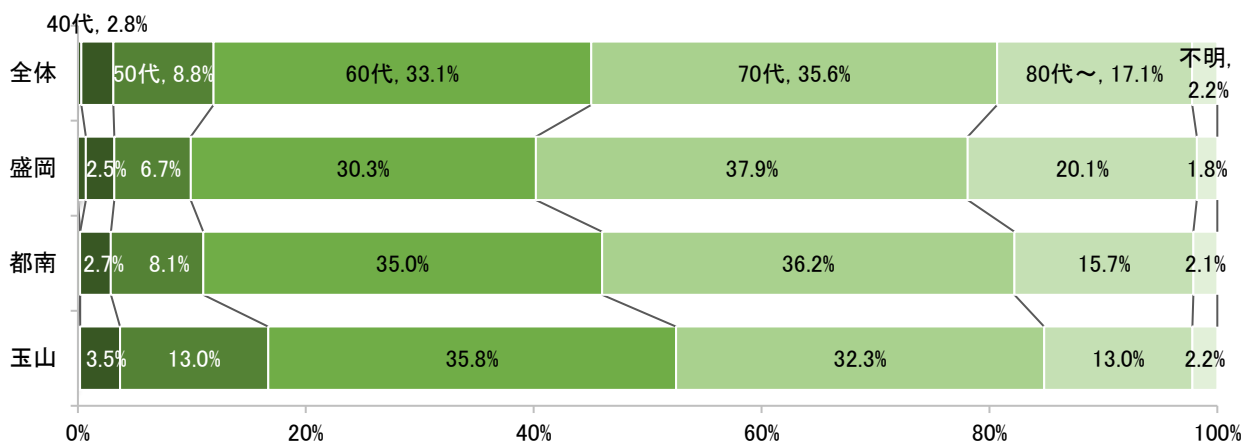
地域	回答者数(人)	構成比(%)
①盛岡地域	907	43.1
②都南地域	528	25.1
③玉山地域	545	25.9
不明	125	5.9



※地域は、回答者の居住地です。
農地の所在地ではありません。

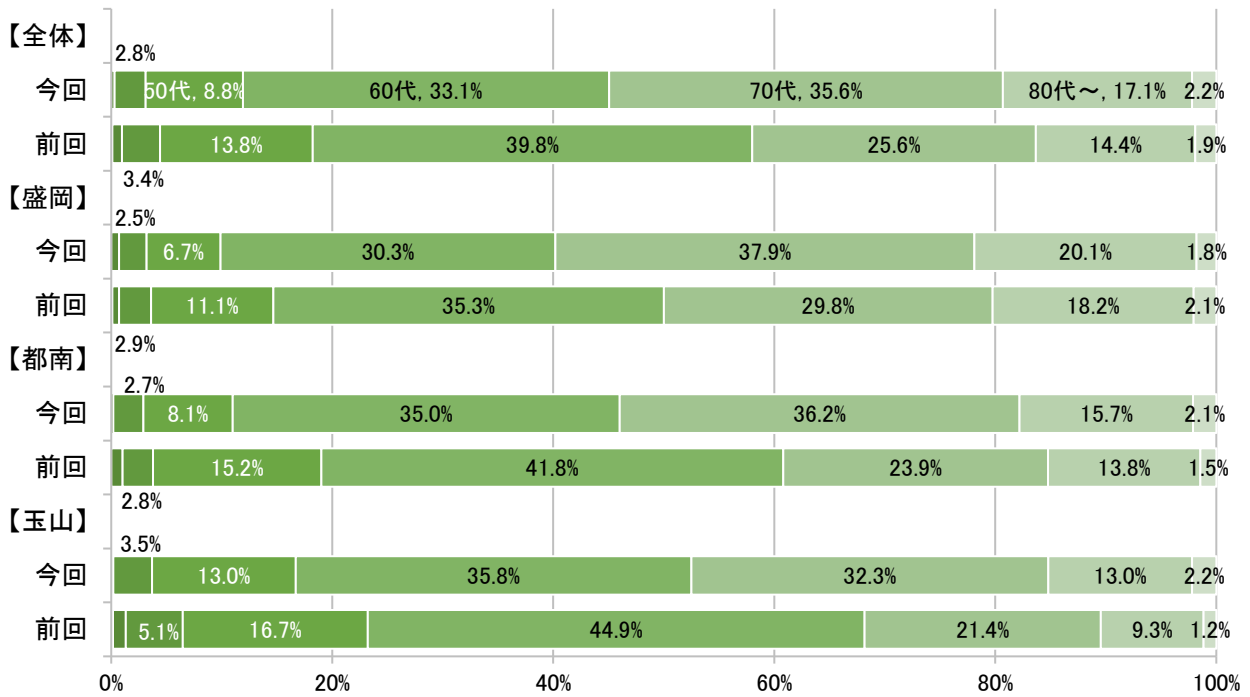
(年齢構成)

どの地域でも60代と70代の割合が高くなっており、60代以上の占める割合は最も低い玉山地域でも8割以上となっています。



(前回調査結果との比較)

どの地域でも、70代未満の各年代の割合が減少する一方、70代以上では各年代の割合が上昇しており、その傾向は特に玉山地域で大きくなっています。



第3 調査結果

1 経営について

(調査結果からみる傾向)

・ 5年前と比べて土地持ち非農家が増加しているほか、後継者不足、農家の高齢化が確実に深刻化している

本市の農家（経営者）は、年齢や性別により違いはあるものの、全体としては、第二種兼業農家が多く、また、経営形態は家族経営が多くなっています（図表1-1、1-2、1-3、3-1、3-2）。

経営部門については、前回調査時よりも稲作が減少し、野菜と果樹が増加していることから、転作が進んでいることがうかがえます（図表2-1、2-2、2-3）。

これらの経営形態の傾向は、5年前と比べても大きな違いはみられませんが、その一方で、若年の農家の減少と高齢化が進んでおり、80歳を超えても約6割の農家が自身で経営していることがわかります（図表3-3）。

また、農業後継者については、前回調査と比べて大きな違いはみられませんが、「農業後継者はいない」と答えた割合は上昇しており、農家の半数が後継者不足の問題を抱えていることがわかります（図表5-1、5-2、5-3）。

経営形態を見ても家族経営が多いことを踏まえると、今後も後継者不足は進み、さらに農家の高齢化が進行するものと推測されます。

また、補助労働力については、「活用していない」と答えた割合が半数近い一方で、「いずれは不足する・すでに不足している」と答えた割合が約3割であることから、今後は一層、労働力不足が進行するものと推測されます（図表6-1、6-2）。

・ 後継者不足、農家の高齢化に伴い、5年後の農業経営については、ほとんどの農家が現状維持か規模縮小（離農）を考えている

5年後の農業経営については、「規模拡大」と答えた割合は3.8%にとどまり、半数以上が「現状維持」、3割が「縮小」または「離農」と回答し、本市における農業の衰退が懸念されますが、前回調査よりも縮小（離農）を予定している農家は減少しています（図表7-1、7-2）。

縮小（離農）については、半数が「農業後継者がいない」、「高齢や病気等で働けない」ことを理由に挙げており、後継者不足、農家の高齢化が原因の一つとなっていることがわかります（図表8-1、8-2）。

・ 若い世代ほど、農業経営への意識、関心が高くなっており、今後は若い世代や後継者の育成に向けた対策が必要

全ての年代において、5年後の農業経営について「現状維持」または「縮小（離農）」を方針とする農家が多く、農業経営の発展が見込めない状況であると捉えることができます（図表7-3）。

その一方で、若い世代ほど、集落・地域での位置づけについて（図表4-1、4-2）、「地域の中心となる経営体である、もしくは将来的には目指している」と答えた割合が高い傾向にあるほか、今後の経営に必要な取組についても、「生産コストの低減」や「経営の複合化」「6次産業化・高付加価値化」など、多様な取組を答えている傾向にあり、農業経営への意識、関心が高くなっていることがわかります（図表9-1、9-2、9-3）。

そのなかでも、規模を縮小（離農）すると答えた若い世代では、「きつい労働の割には収入が不安定」であることを理由に挙げていることから（図表8-3）、今後、若い世代や後継者を育成するにあたっては、これらの課題への対策が必要になってくるものと推測されます。

(1) 農業経営について（専業別）（回答者数 2,105人）

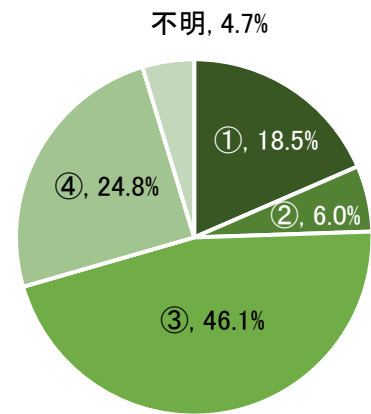
問1 あなたの農業経営は、次のどの項目に該当しますか？該当する項目1つに○印をお願いします。

・半数が「第二種兼業農家（他の収入が、農業収入より多い）」（46.1%）

次いで、「土地持ち非農家」が24.8%、「専業農家」が18.5%となっています。

(図表1-1 農業経営について（専業別）)

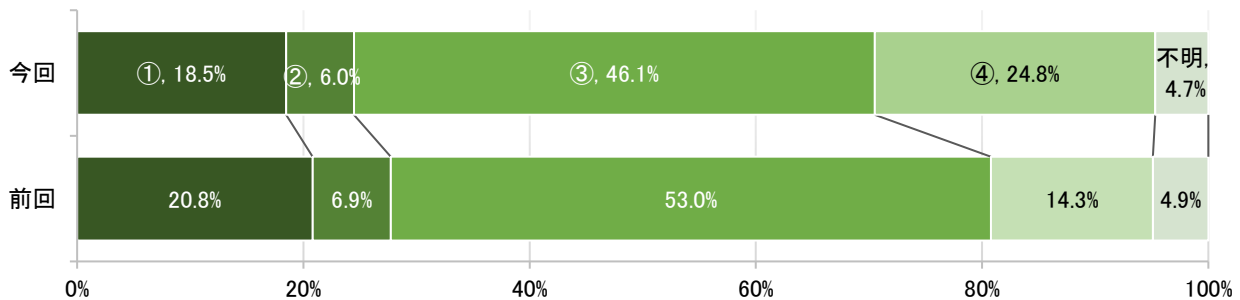
選択肢	構成比(%)
①専業農家 (農業収入のみ)	18.5
②第一種兼業農家 (農業収入が、他の収入より多い)	6.0
③第二種兼業農家 (他の収入が、農業収入より多い)	46.1
④土地持ち非農家 (農地は所有しているが、自分では耕作していない)	24.8
不明	4.7



(前回調査結果との比較)

全体的に農業経営をしている割合が減少し、農地は所有しているが自分では耕作していない「土地持ち非農家」が増加しています。

(図表1-2 農業経営について（専業別） 前回調査結果との比較)



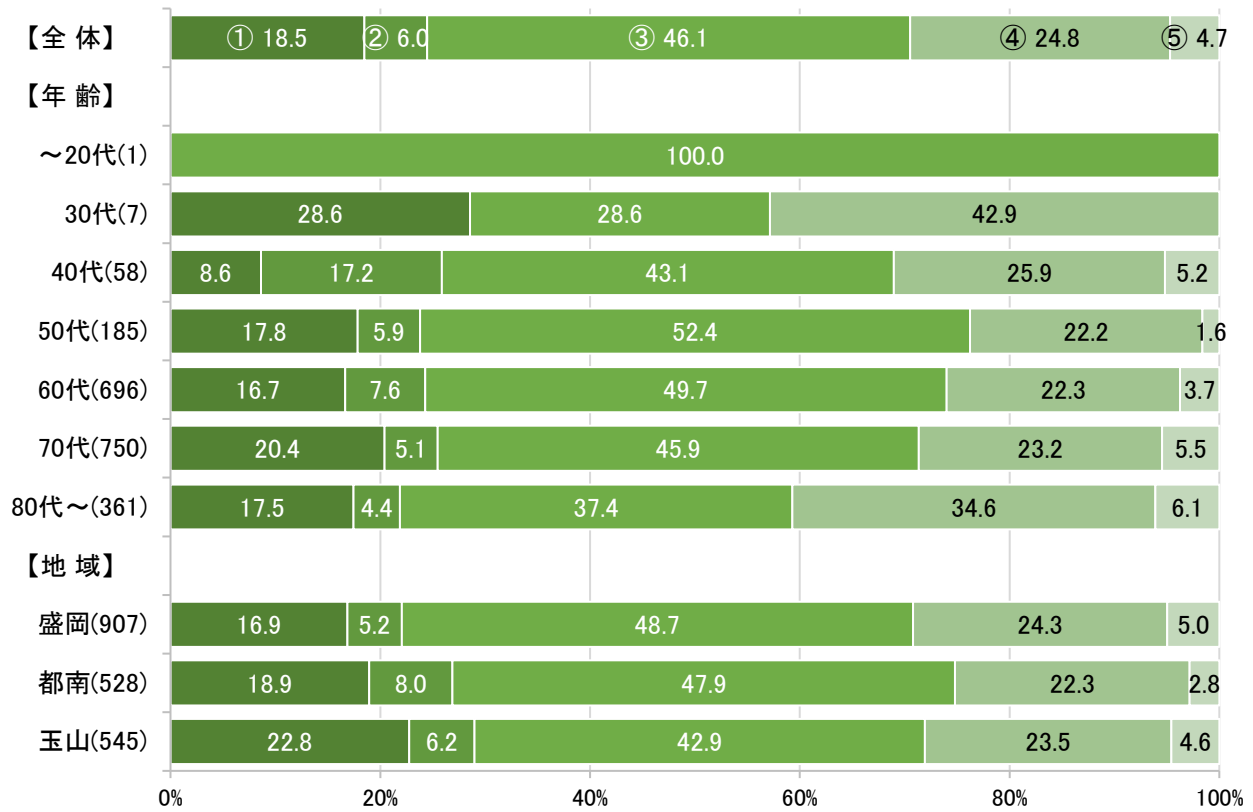
(属性別)

・30代では、専業農家の割合が高くなっているのに対し、40代では低くなっています。また、50代以降は年代が上がるごとに土地持ち非農家の割合が高くなる傾向にあります。

・地域ごとの特徴として、盛岡地域では第二種兼業農家が、都南地域では第一種兼業農家が、玉山地域では専業農家の割合が他の地域よりも高くなっています。

(図表1-3 農業経営について(専業業別) 属性別)

(%)



※ ()内の数値は回答者数です。

(2) 取り組んでいる部門について (回答数 2,750人)

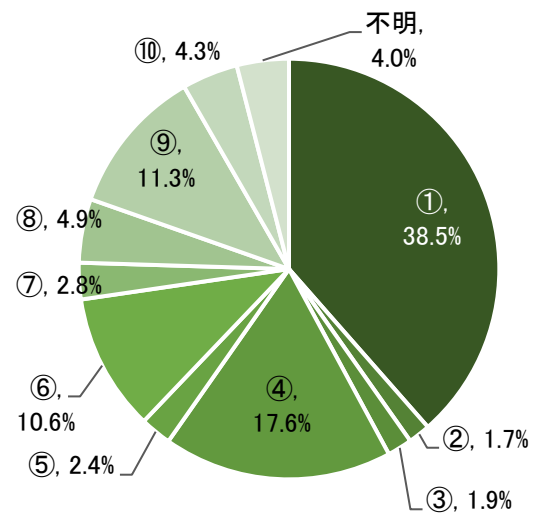
問2 あなたが現在取り組んでいる部門は何ですか？収入の多い順に1～3の番号を口内に記入してください。

・収入が多い部門の第1位は、「稲作（主食米用）」（38.5%）

次いで、「野菜」が17.6%、「果樹」が10.6%となっており、「販売していない（自家用のみ）」農家の割合は11.3%となっています。

(図表2-1 取り組んでいる部門について 第1位)

選択肢	構成比(%)
①稲作（主食米用）	38.5
②小麦	1.7
③大豆	1.9
④野菜	17.6
⑤花き	2.4
⑥果樹	10.6
⑦飼料作物（飼料用米、牧草など）	2.8
⑧畜産	4.9
⑨販売していない（自家用のみ）	11.3
⑩その他	4.3
不明	4.0



⑩その他

農家民宿、たばこ、そば、養蜂、作業受託（水稻）、きのこ、薬草 など

(前回調査結果との比較)

前回よりも稲作（主食米用）が9.7ポイント減少し、野菜が7.2ポイント、果樹が2.6ポイント増加しています。

(図表2-2 取り組んでいる部門について 前回調査結果との比較)

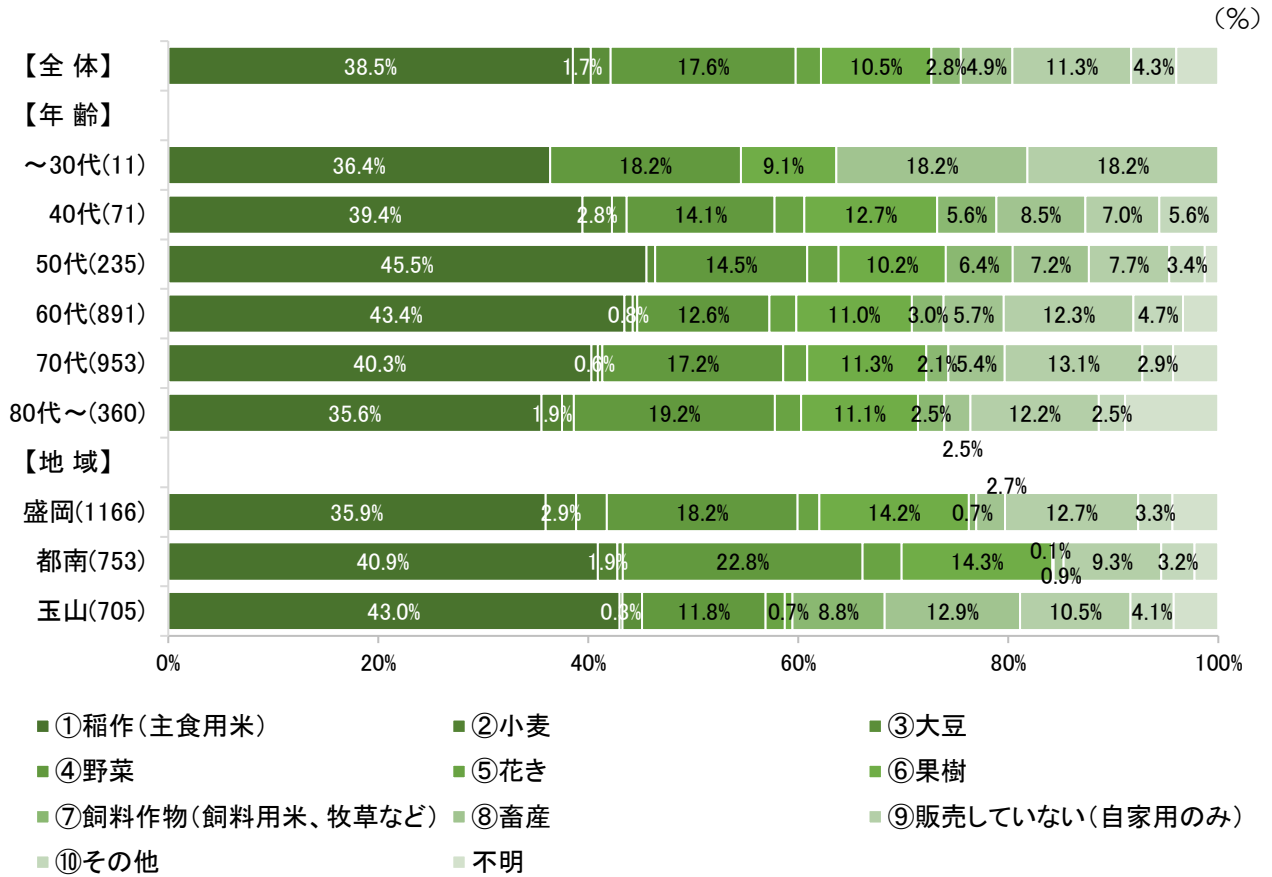
上位 5部門	今回		前回	
	選択肢	構成比(%)	選択肢	構成比(%)
1	稲作（主食米用）	38.5	稲作（主食米用）	48.2
2	野菜	17.6	野菜	10.4
3	果樹	10.5	果樹	7.9
4	畜産	4.9	その他	4.5
5	その他	4.3	畜産	4.4

※「⑨販売していない（自家用のみ）」及び「不明」を除く。

(属性別)

- ・「稲作」の割合は、各年代で高くなっていますが、特に50代で高くなっています。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「野菜」や「果樹」の割合が高くなっているのに対し、玉山地域では、「畜産」の割合が高くなっています。

(図表2-3 取り組んでいる部門について 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

(3) 経営について (回答者数 1,584人)

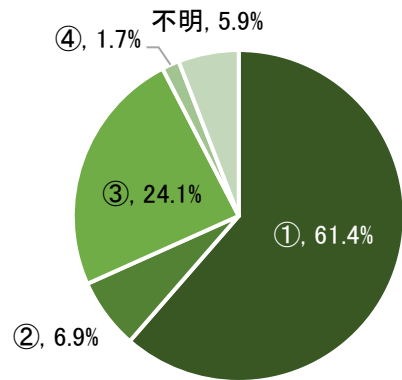
問4 あなたの経営について、該当する項目1つに○印をお願いします。

・6割以上が「家族経営」(61.4%)

次いで、「作業の一部または全部を委託している」農家が24.1%、「農作業を請け負ったり、農地を借りている」農家が6.9%となっています。

(図表3-1 経営について)

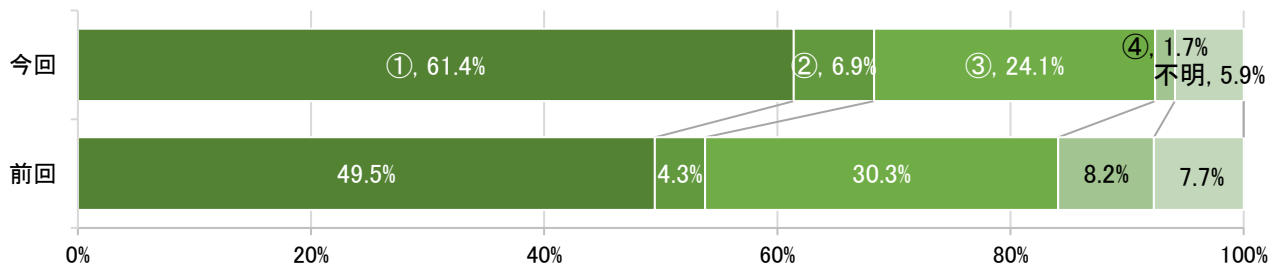
選択肢	構成比(%)
①全て自分(家族)の経営	61.4
②農作業を請け負ったり、農地を借りている	6.9
③作業の一部または全部を委託している	24.1
④農地を全て貸している	1.7
⑤不明	5.9



(前回調査結果との比較)

前回よりも「全て自分(家族)の経営」と答えた割合が増加した一方で、「作業の一部または全部を委託している」と答えた割合が減少しています。

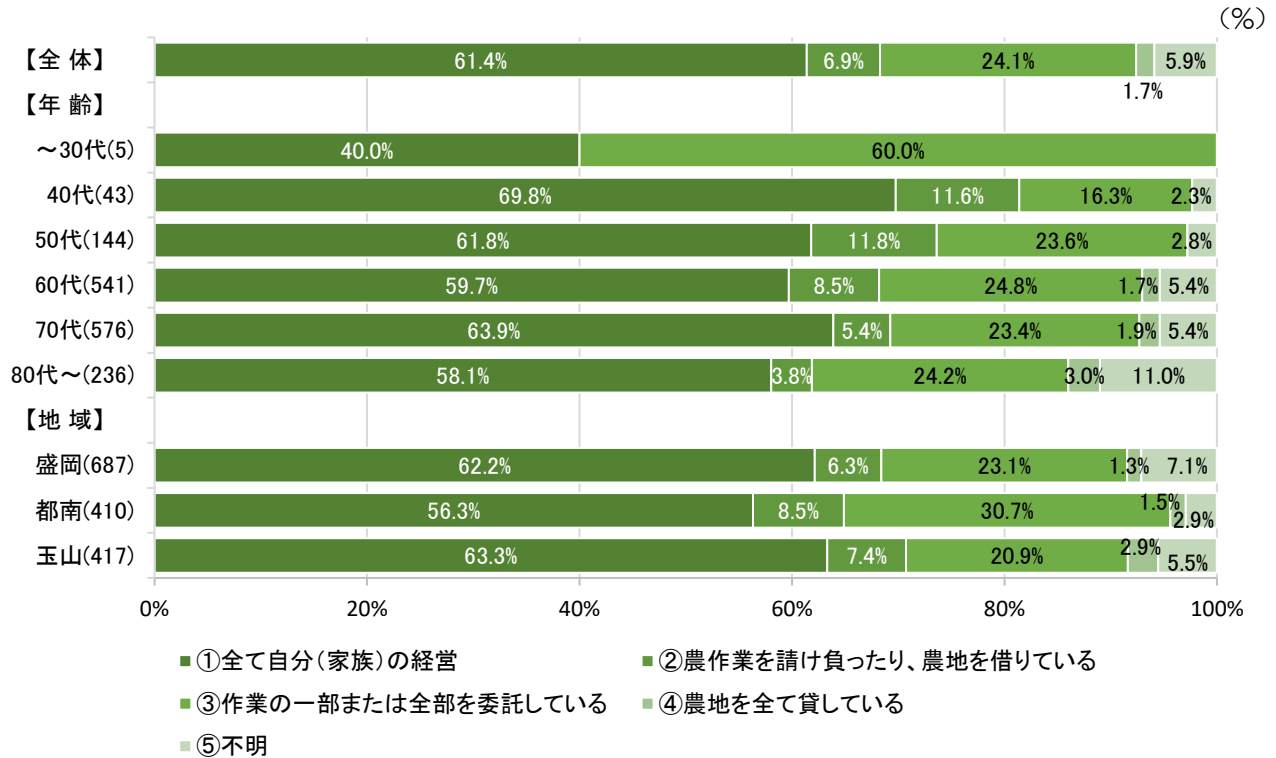
(図表3-2 経営について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・40代では、「全て自分（家族）で経営」している割合が高くなっています。
- ・50代以降では年代が上がるにつれて、「農作業を請け負ったり、農地を借りている」割合が低くなる傾向にある。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「農作業を請け負ったり、農地を借りている」割合が高く、また、「農作業の一部を委託している」割合も高くなっています。

(図表3-3 経営について 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

(4) 集落・地域での位置づけについて（回答者数 1,584人）

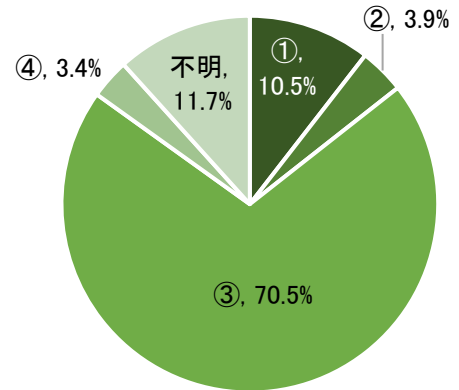
問5 あなたの経営は集落・地域の中でどのような位置づけだと思いますか？該当する項目1つに○印をお願いします。

・7割以上が「今は地域の中心ではなく、将来的にも考えていない」（70.5%）

「地域の中心となる経営体である」と答えた農家は10.5%、「今は中心ではないが、将来的には目指している」と答えた農家は3.9%となっています。

（図表4-1 集落・地位での位置づけについて）

選択肢	構成比(%)
①地域の中心となる経営体である	10.5
②今は中心ではないが、将来的には目指している	3.9
③今は中心ではなく、将来的にも考えていない	70.5
④その他	3.4
不明	11.7



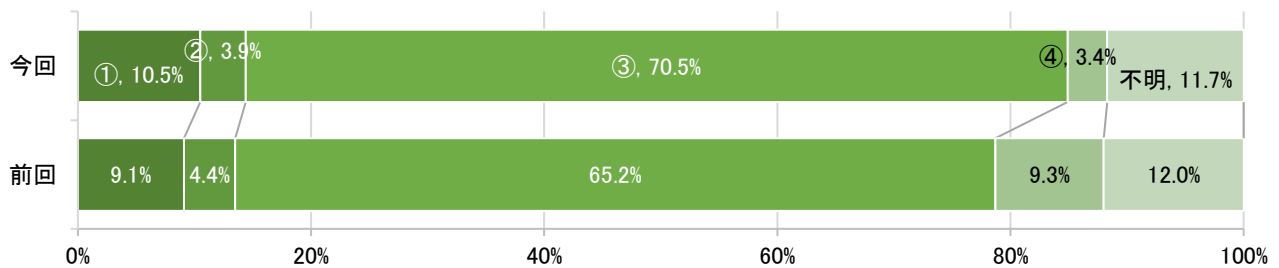
④その他

非農家、規模が小さい、自家用のみ、離農を検討 など

（前回調査結果との比較）

全体的な傾向に大きな違いはみられませんが、「今は中心ではなく、将来的にも考えていない」と答えた割合が増加しています。

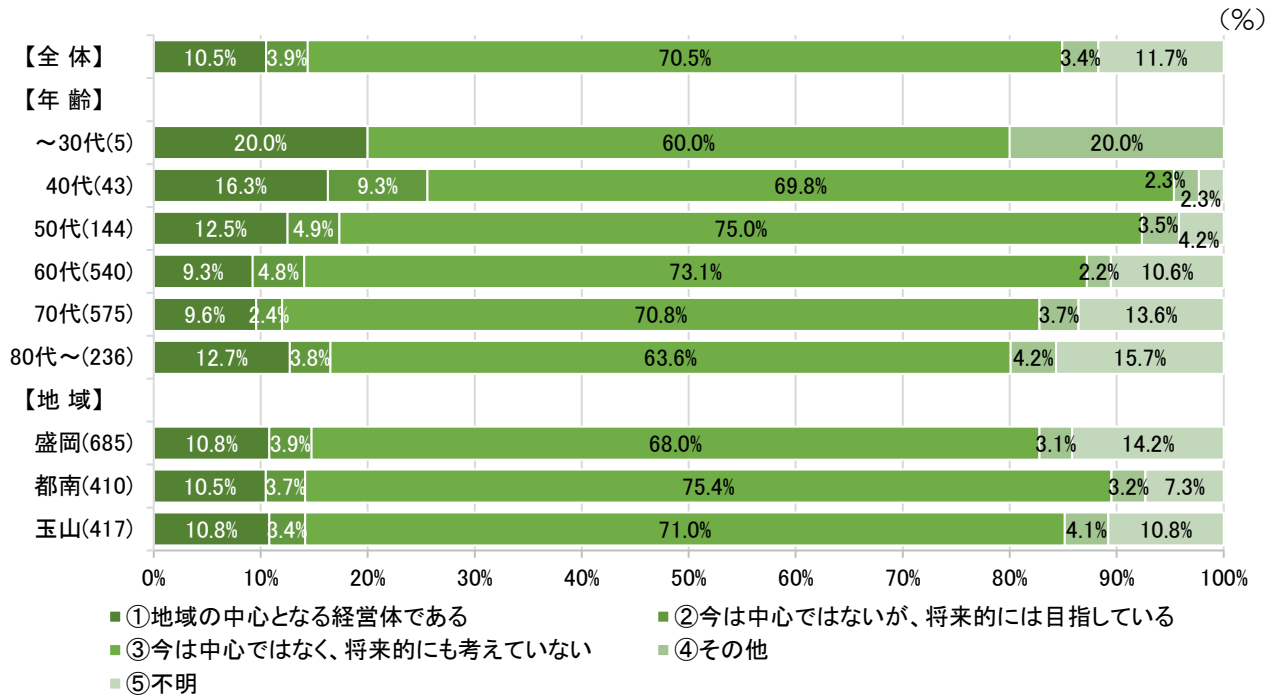
（図表 4-2 経営について 前回調査結果との比較）



(属性別)

- ・30代以下及び40代では、他の年代と比べて「地域の中心となる経営体である」、または「将来的には目指している」と答えた割合が高くなっています。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「今は中心ではなく、将来的にも考えていない」と答えた割合が高くなっています。

(図表4-3 集落・地位での位置づけについて 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

(5) 農業後継者について (回答者数 1,584人)

問6 あなたの農業後継者についてお聞きします。該当する項目1つに○印をお願いします。

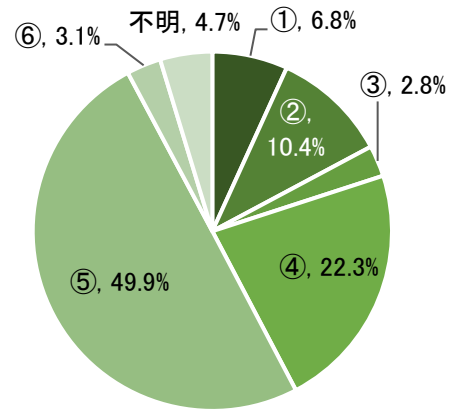
・半数が「農業後継者はいない」(49.9%)

「農業後継者が従事している(①、②)」農家は17.2%、「近い将来、従事する家族がいる(③、④)」農家は25.1%となっています。

また、将来従事する予定の後継者のほとんどは、「兼業農家」となっています。

(図表5-1 農業後継者について)

選択肢	構成比(%)
①農業後継者が専従で農業に従事している	6.8
②農業後継者が兼業で農業に従事している	10.4
③今は従事していないが、近い将来、専業で後継者となる家族がいる	2.8
④今は従事していないが、近い将来、兼業で後継者となる家族がいる	22.3
⑤農業後継者はいない	49.9
⑥その他	3.1
不明	4.7



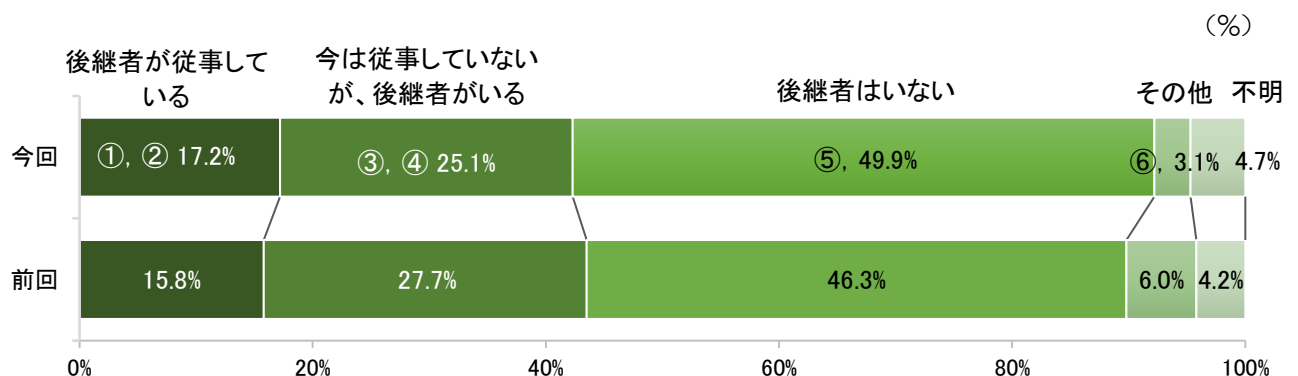
⑥その他

未定 など

(前回調査結果との比較)

今回の調査では、「後継者が従事している」と答えた割合が上昇した一方で、「農業後継者はいない」と答えた割合も上昇しています。

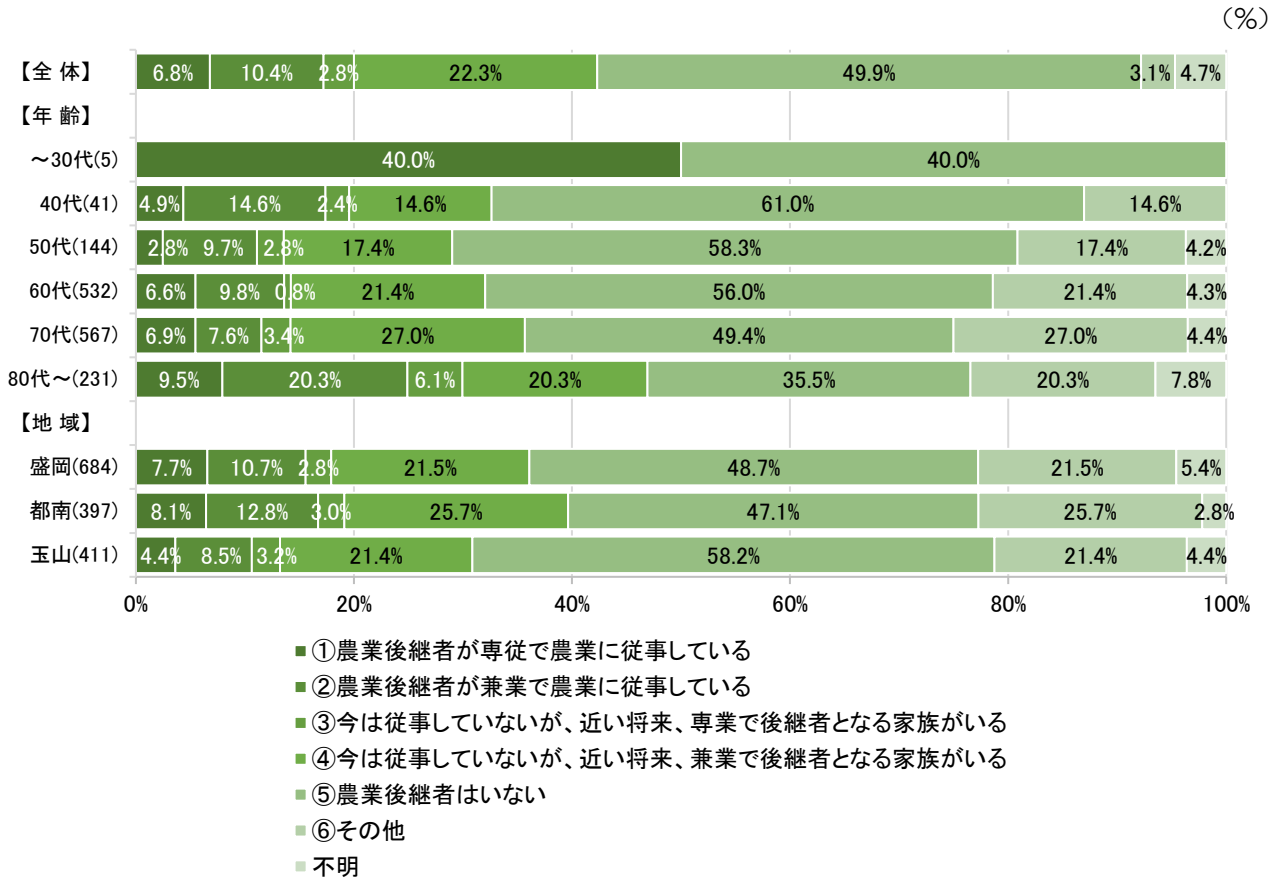
(図表5-2 農業後継者について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・40～70代では、「農業後継者はいない」と答えた割合が高くなっているのに対し、80代以上では、農業後継者が従事している割合が高くなっています。
- ・玉山地域では、他の地域と比べて「農業後継者はいない」と答えた割合が高くなっています。

(図表5-3 農業後継者について 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

(6) 補助労働力（臨時雇用、アルバイト）について（回答者数1,584人）

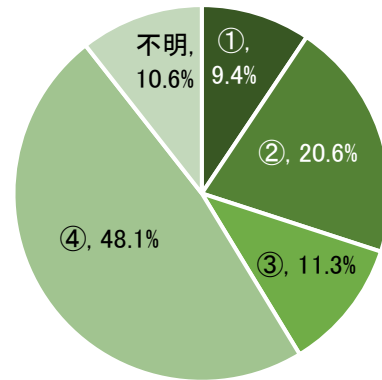
問7 現在の補助労働力（臨時雇用、アルバイト）についてお聞きします。該当する項目1つに○印をお願いします。

・半数が「補助労働力を活用していない」（48.1%）

「足りており、将来的にも確保できる見込みである」と回答した割合は1割である一方で、「いずれは不足する・すでに不足している（②、③）」と回答した割合は3割となっています。

（図表6-1 補助労働力（臨時雇用、アルバイト）について）

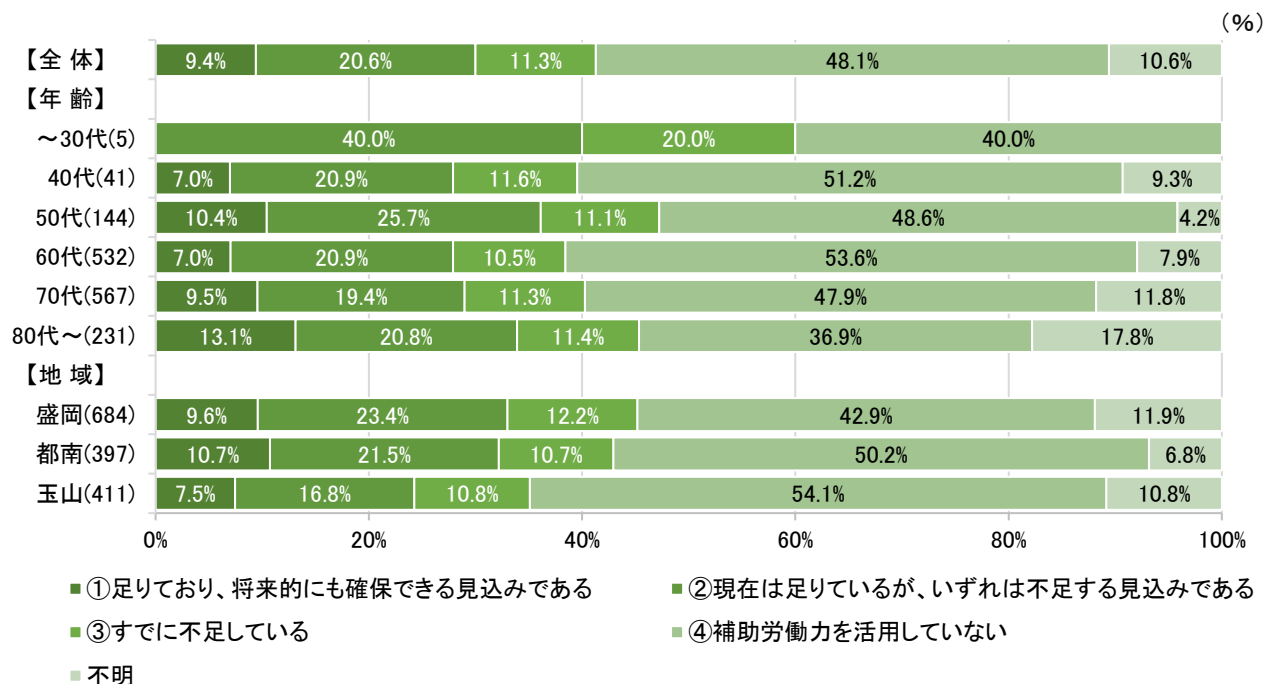
選択肢	構成比(%)
①足りており、将来的にも確保できる見込みである	9.4
②現在は足りているが、いずれは不足する見込みである	20.6
③すでに不足している	11.3
④補助労働力を活用していない	48.1
不明	10.5



（属性別）

- ・80代では、「足りており、将来的にも確保できる見込みである」と答えた割合が高くなっており、60代では、「補助労働力を活用していない」と答えた割合が高くなっています。
- ・玉山地域では、他の地域と比べて「現在は足りているが、いずれは不足する見込みである」と答えた割合が低くなっています。

（図表6-2 補助労働力（臨時雇用、アルバイト）について 属性別）



(7) 5年後の農業経営について (回答者数 1,584人)

問8 あなたは今後、5年以内にご自身の経営をどのようにしていく予定ですか？該当する項目1つに○印をお願いします。

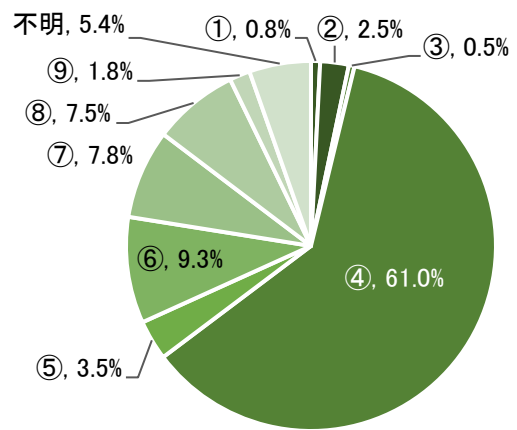
・半数以上が「現状維持」(61.0%)

「規模を拡大(①～③)」と答えた農家は3.8%、「規模を縮小(⑤～⑦)」すると答えた農家は20.6%、「離農」すると答えた農家は7.5%となっています。

拡大方法は、「農地を借りて拡大(②)」する割合が高く、縮小方法は、「農作業を委託(⑤)」が3.5%、「農地を貸す(⑥、⑦)」が17.1%となっています。

(図表7-1 5年後の農業経営について)

選択肢	構成比(%)
①農地を購入して規模を拡大	0.8
②農地を借りて規模を拡大	2.5
③農作業を受託し規模を拡大	0.5
④現状維持	61.0
⑤農地は貸さずに、農作業の一部または全部を委託	3.5
⑥農地を一部貸し、自身の経営を縮小	9.3
⑦農地を全て貸し出す	7.8
⑧離農する	7.5
⑨その他	1.8
不明	5.4



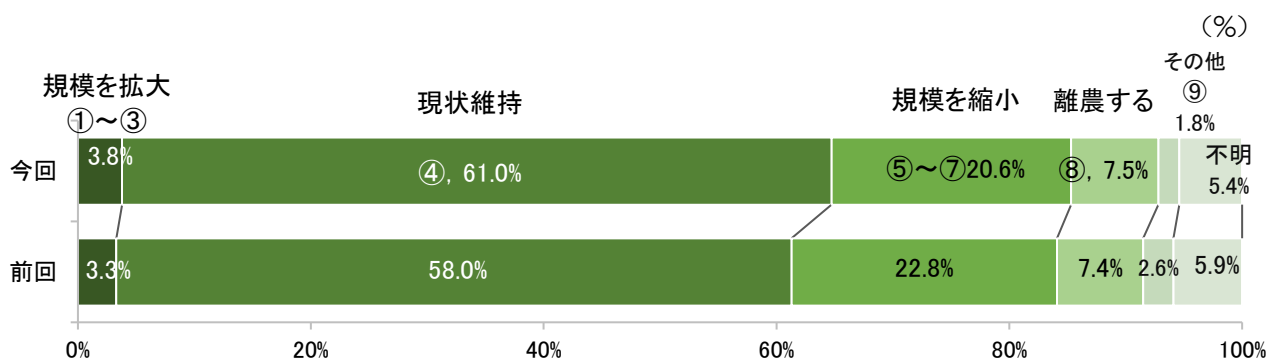
⑩その他

未定、売却する、耕作放棄になる など

(前回調査結果との比較)

「現状維持」と答えた農家の割合は3.0ポイント増加し、「規模を縮小する」と答えた農家の割合は2.2ポイント減少しています。

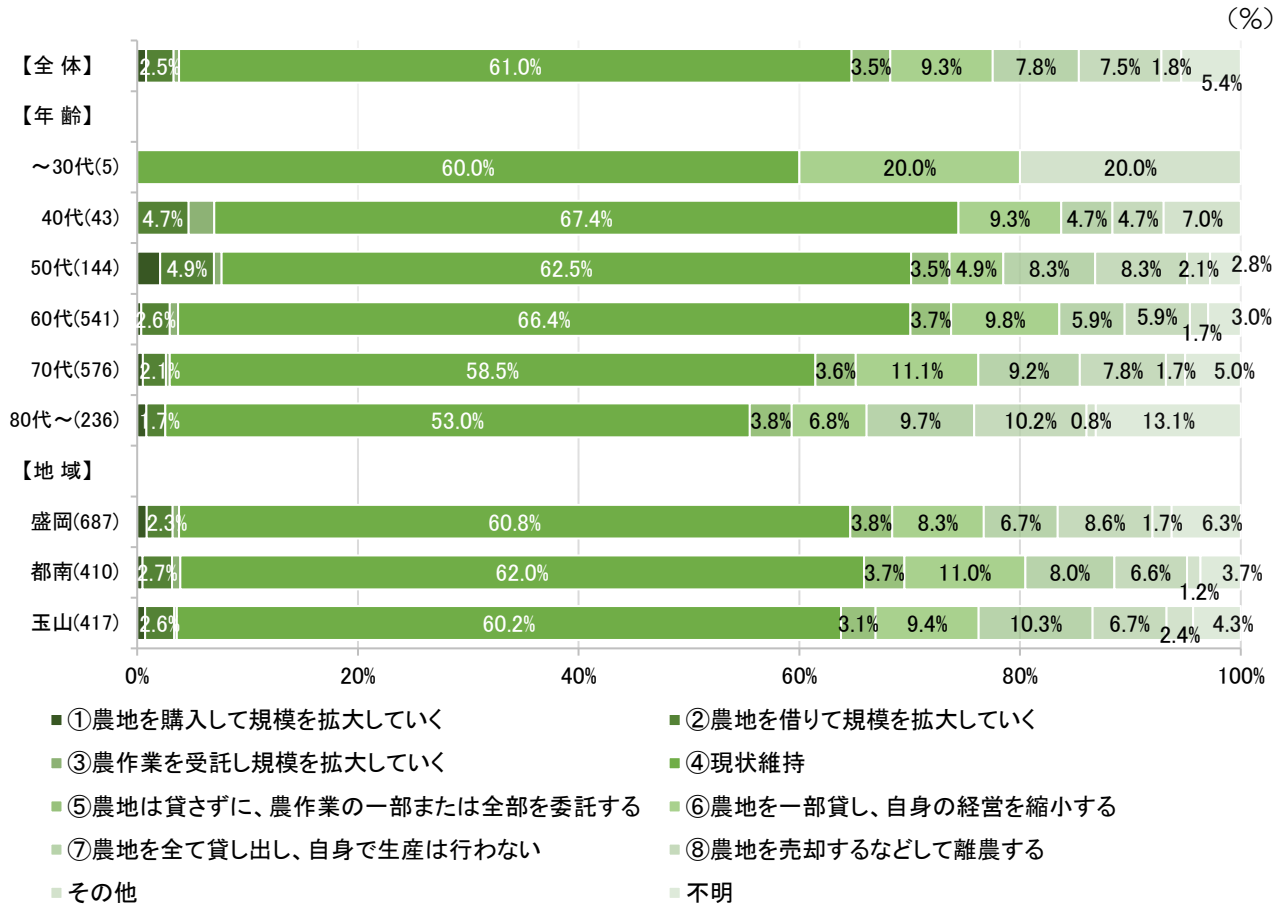
(図表7-2 5年後の農業経営について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・若い年代ほど「規模を拡大」と答えた割合が高く、反対に、年代が上がるにつれて「規模を縮小する」、「離農する」と答えた割合が高くなっています。
- ・地域ごとの特徴や差異はほとんどみられません。

(図表7-3 5年後の農業経営について 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

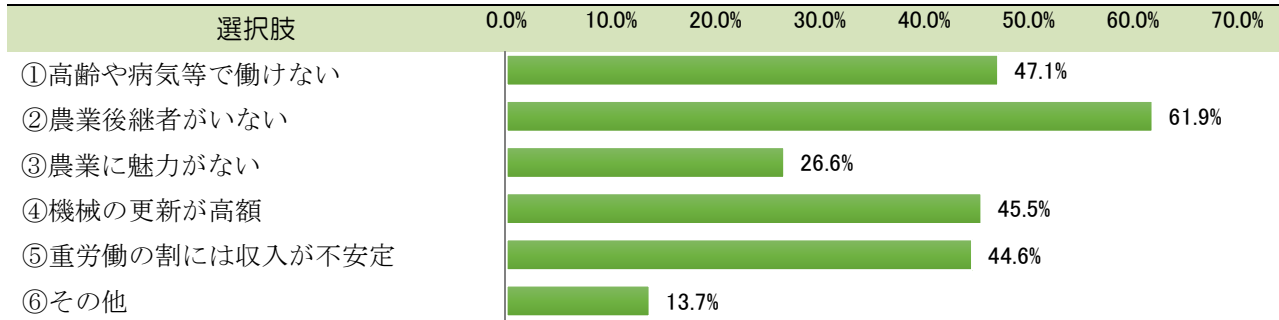
(8) 規模縮小（離農）の理由について（回答者数 473人）

問10 Q8で⑤～⑨とお答えいただいた方にお尋ねします。規模縮小や離農したい理由は何ですか？該当する項目全てに○印をお願いします。

・半数が「農業後継者がいない」（61.9%）、「高齢や病気等で働けない」（47.1%）

次いで、「機械の更新が高額」が45.5%、「重労働の割には農業収入が不安定」が44.6%となっています。

（図表8-1 規模縮小（離農）の理由について）



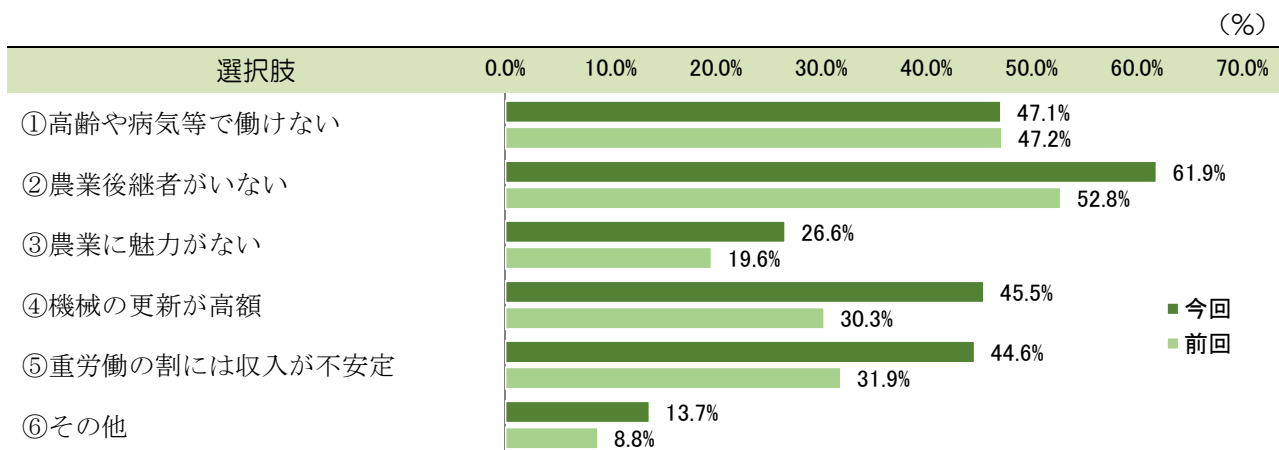
⑥その他

他の仕事との両立が難しい、収入が少ない、法人化する など

（前回調査結果との比較）

全体的な傾向に大きな違いはみられませんが、「機械の更新が高額」「重労働の割には収入が不安定」を理由に挙げる割合が大幅に上昇しています。

（図表8-2 規模縮小（離農）の理由について 前回調査結果との比較）



(属性別)

・50代から年代が上がるにつれて、「高齢や病気等で働けない」ことを理由にした割合が高くなっています。また、40代から60代の年代では、「農業に魅力がない」、「機械の更新が高額」、「収入が不安定」であることなどを理由にした割合が高くなっています。

・盛岡地域では、他の地域と比べて「高齢や病気等で働けない」、「農業後継者がいない」ことを理由にした割合が高くなっているのに対し、都南地域では、「機械の更新が高額」であることを理由にした割合が高くなっています。また、玉山地域では、他の地域と比べて「収入が不安定」であることを理由にした割合が低くなっています。

(図表8-3 規模縮小(離農)の理由について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	不明
【全体】	473	50.2	66.0	28.4	48.4	47.5	14.6	22.3
【年齢】								
～30代	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
40代	11	0.0	45.5	18.2	45.5	54.5	27.3	18.2
50代	39	25.6	61.5	35.9	51.3	41.0	33.3	15.4
60代	146	36.3	67.8	30.1	58.2	50.7	13.7	16.4
70代	193	54.9	60.1	22.3	39.9	41.5	7.8	19.7
80代～	74	66.2	56.8	25.7	35.1	43.2	6.8	31.1
【地域】								
盛岡	200	49.5	66.5	25.5	42.0	45.5	12.5	23.0
都南	125	48.0	56.8	28.8	50.4	48.0	15.2	12.8
玉山	133	43.6	61.7	26.3	47.4	39.1	7.5	18.8

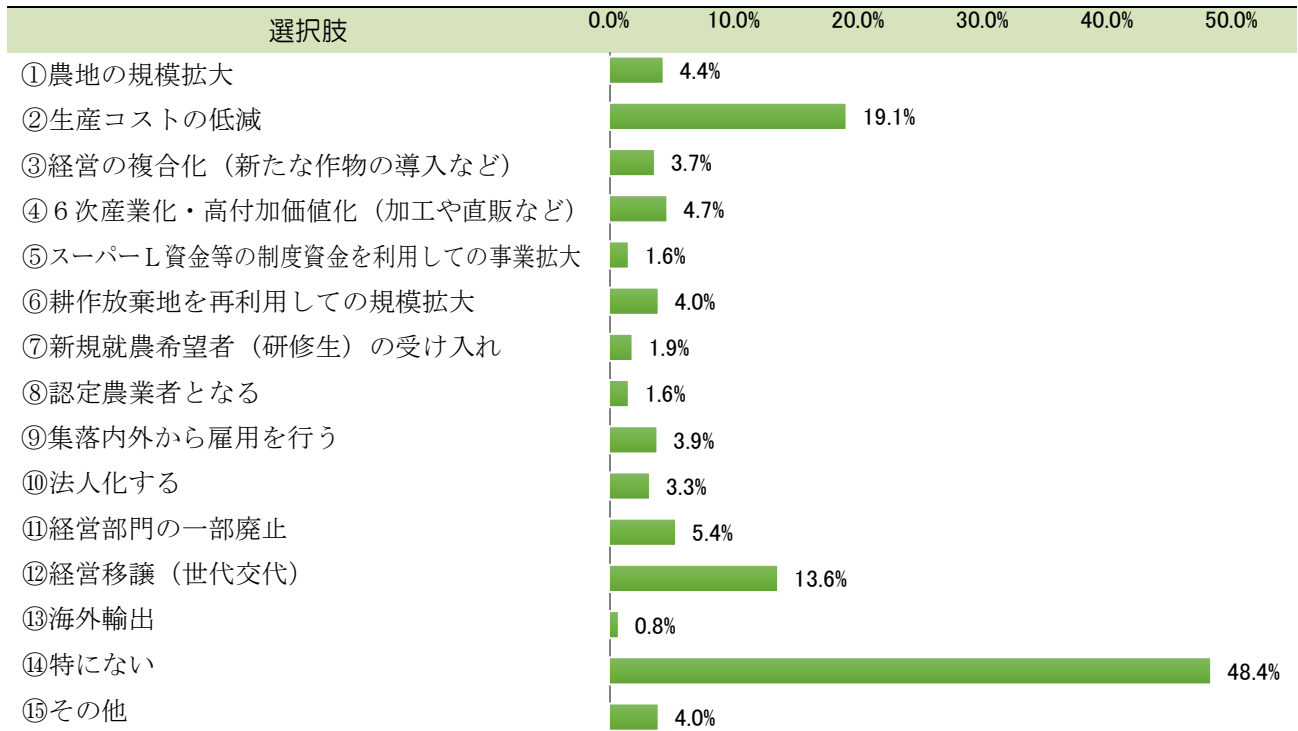
(9) 今後の経営に必要な取組について（回答者数 1,584人）

問13 あなたが今後、ご自身の経営に必要と考える取り組みは何ですか？該当する項目全てに○印をお願いします。

・半数が「特にない」（48.4%）

次いで、「生産コストの低減」が19.1%、「経営移譲（世代交代）」が13.6%となっています。

（図表9-1 今後の経営に必要な取組について）



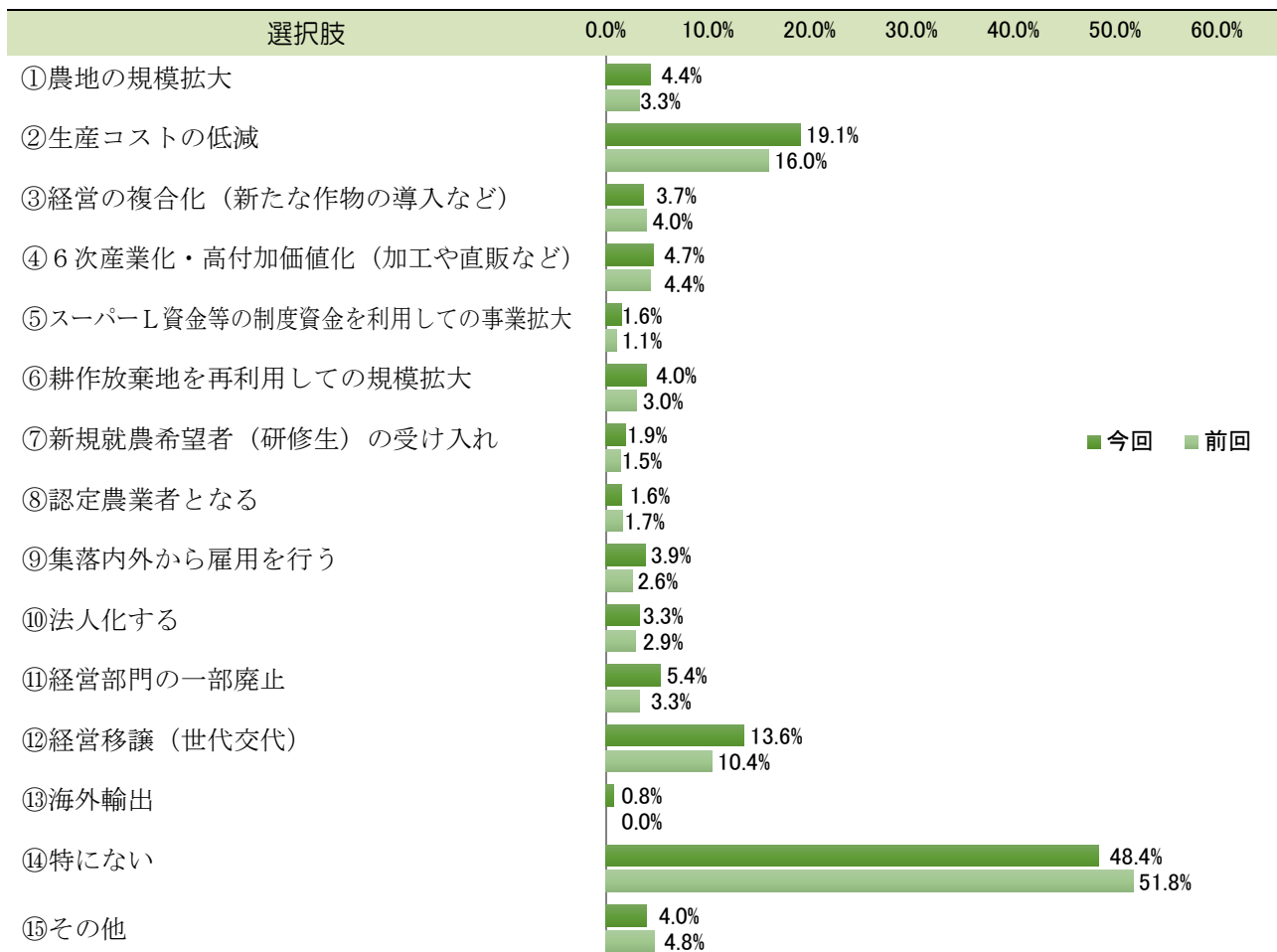
⑮その他

交付金や補助金の活用、有害鳥獣の駆除、農地の売却、節約、検討中 など

(前回調査結果との比較)

全体的な傾向に大きな差異はみられません。

(図表9-2 今後の経営に必要な取組について 前回調査結果との比較)



※前回調査では「⑬海外輸出」の項目はなかったため、0.0%の表示となっています。

(属性別)

- ・若い年代では、「②生産コストの低減」のほかに、「③経営の複合化」や「④6次産業化・高付加価値化」「⑤制度資金を利用したの事業拡大」を選択している割合が高くなっているのに対し、60代以上では、「⑪経営部門の一部廃止」や「⑫経営移譲（世代交代）」を選択している割合が高くなっています。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「②生産コストの低減」「④6次産業化・高付加価値化」を選択している割合が高くなっています。

(図表9-3 今後の経営に必要な取組について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)														
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
全体	1,584	4.4	19.1	3.7	4.7	1.6	4.0	1.9	1.6	3.9	3.3	5.4	13.6	0.8	48.4	4.0
年齢																
～30代	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
40代	43	9.3	37.2	11.6	7.0	9.3	2.3	2.3	2.3	11.6	7.0	2.3	0.0	2.3	46.5	7.0
50代	144	9.7	32.6	6.3	7.6	4.9	6.3	4.9	3.5	6.3	6.3	3.5	7.6	1.4	43.8	5.6
60代	541	4.4	22.6	4.1	6.3	0.7	5.2	2.2	2.4	3.3	2.6	6.8	12.9	0.9	51.4	3.3
70代	576	3.3	14.6	2.6	3.0	1.2	3.0	1.0	0.5	4.2	2.4	5.7	15.5	0.5	47.7	3.8
80代～	236	3.0	11.0	1.7	3.0	0.8	3.4	0.8	0.8	1.3	3.4	3.8	17.8	0.4	46.6	5.1
地域																
盛岡	687	3.5	18.2	3.6	5.1	1.0	4.4	1.7	1.9	4.2	4.4	4.8	14.6	0.7	50.4	3.8
都南	410	4.9	22.4	3.2	6.1	1.2	3.2	2.4	1.2	4.6	2.4	6.8	16.8	1.0	44.9	5.1
玉山	417	5.3	18.5	4.3	2.6	2.9	3.6	1.4	1.0	2.6	2.2	5.3	9.4	0.5	48.4	3.6

2 今後の地域の農業について

(調査結果からみる傾向)

・今後の地域農業については、若年の農業者が減少し、高齢化が一層進むことへの不安が高まっている

10年後の地域の状況については、「問題ない状態である（各世代の農業者によって持続的な農業が営まれる）」と答えた割合は5.4%と非常に低く、6割以上が「若年の農業者が減少し、高齢化が一層進む」、また、高齢化に伴い増加することが懸念されている耕作放棄地についても、「増加する」と答えた割合が50.4%と高くなっており、高齢化が続く農業への不安が高まっていることがわかります（図表10-1）。

地域別にみると、都南地域では、他の地域と比べて「若年の農業者が減少し、高齢化が一層進む」、「地域を支える安定した経営体が減少する」といった農業経営に関する不安が高い傾向にあるのに対し、玉山地域では、「農地が利用されず、耕作放棄地が増加する」、「転出（または離農）が進み、集落・地域による営農が維持できなくなる」といった農業離れに関する不安が高い傾向にあります（図表10-3）。

・高齢化が続く中、地域農業を維持するための取組に関する意識、関心は高くなっており、集落営農や青年就農者の必要性が高まっている

高齢化が続く農業への不安が高まっていますが、地域農業を今後維持していくために必要な取組については、4人に1人が「集落・地域の中心となっている経営体に農地を集積する」あるいは「法人化による農業経営を進める」と答えています（図表11-1）。

また、「青年就農者（新たに就農する若い人）を育て、農地を集積する」と答えた割合は22.4%、「認定農業者など個人の担い手に農地を集積する」と答えた割合は15.4%と、いずれも前回の調査と比べてそれぞれ3.8ポイント、1.8ポイント上昇しているほか、「現状のままでよいと思う」と答えた割合は20.4%と前回の調査から2.4ポイント減少しているため、地域農業を維持していくための取組に関する意識、関心が高くなっているものと推測されます（図表11-1、11-2）。

地域別にみると、都南地域では、「集落・地域の中心となっている経営体に農地を集積する」、「農事組合など法人化による農業経営を進める」と答えた割合が高くなっており、他の地域と比べて集落営農の取組が進んでいるものと推測されます（図表11-3）。

また、青年就農者（の養成）については、「将来を考え早い段階で確保する必要がある」と答えた割合が34.6%、「今すぐ確保する必要がある」と答えた割合が27.1%となっており、青年就農者の必要性が高まっていることがわかります（図表12-1）。

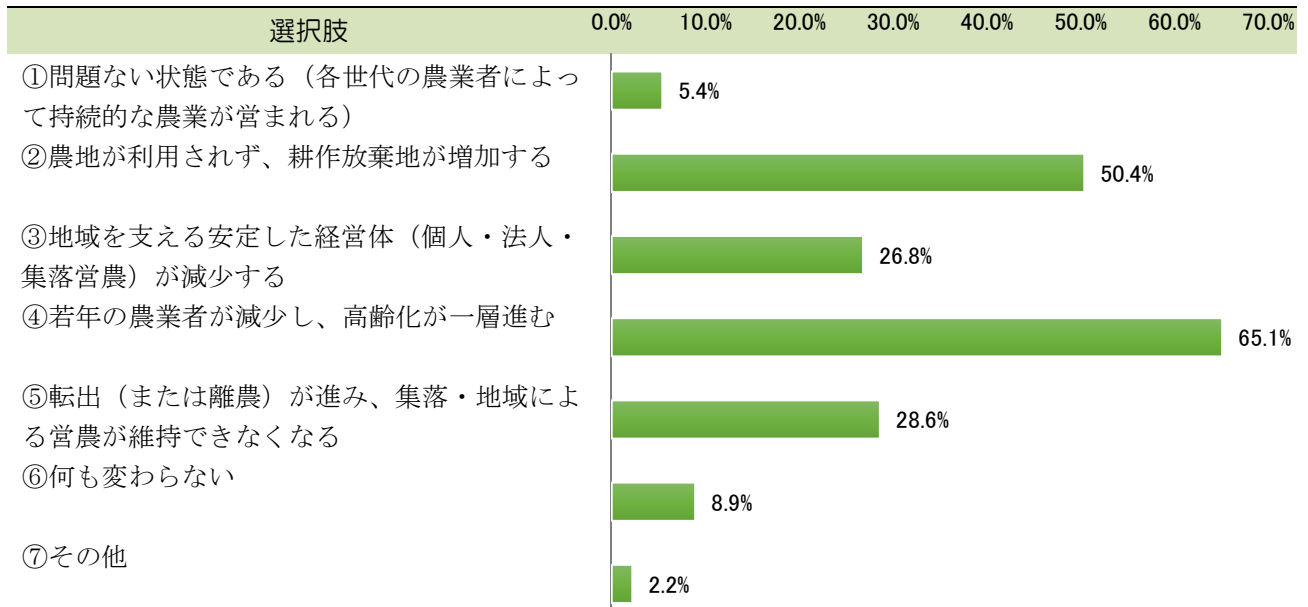
(10) 10年後の状況について（回答者数 2,105人）

問14 あなたの地域は現状のまま推移した場合、10年後にどのような状況になっていると思いますか？該当する項目全てに○印をお願いします。

- ・半数以上が、「若年の農業者が減少し、高齢化が一層進む」（65.1%）

次いで、「農地が利用されず、耕作放棄地が増加する」が50.4%、「転出（または離農）が進み、集落・地域による営農が維持できなくなる」が28.6%となっています。

（図表10-1 10年後の状況について）



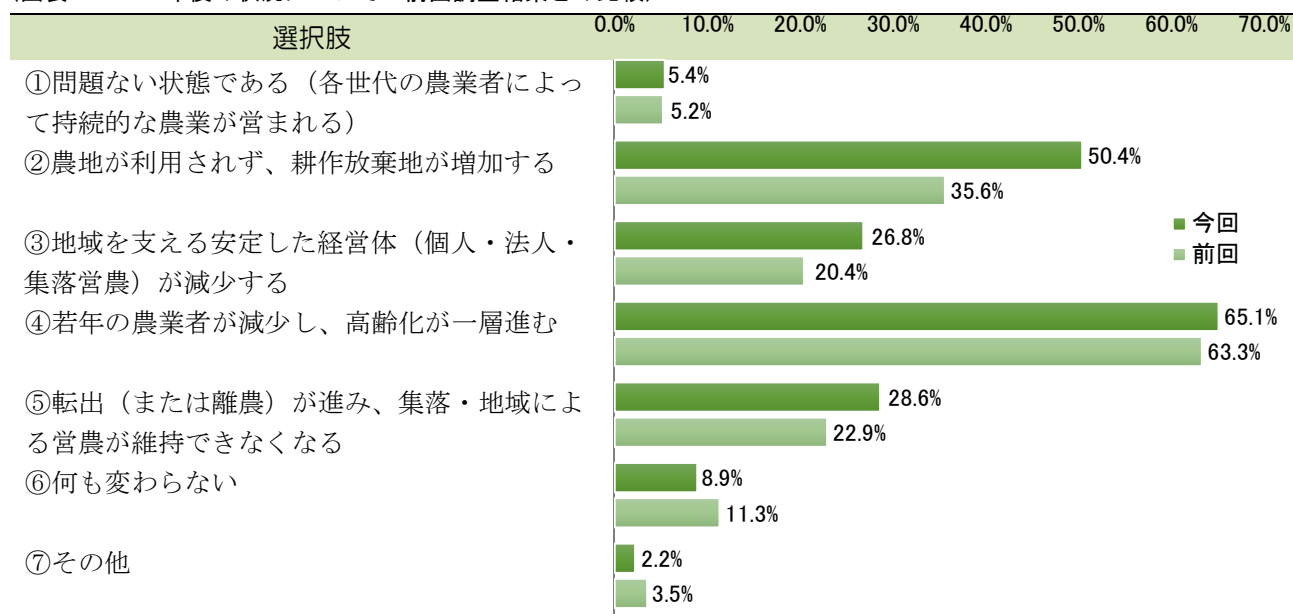
⑦その他

宅地など都市化が進む、分からない など

（前回調査結果との比較）

全体的に割合が増加しており、特に「農地が利用されず、耕作放棄地が増加する」を選択した割合が14.8ポイント増加しています。

（図表10-2 10年後の状況について 前回調査結果との比較）



（属性別）

・40代から60代の年代で、「地域を支える安定した経営体が減少する」と答えた割合が高く、また若い世代ほど「転出（または離農）が進み、集落・地域による営農が維持できなくなる」と答えた割合が高くなっています。

・他の地域と比べて、盛岡地域では「地域を支える安定した経営体が減少する」と「若年の農業者が減少し、高齢化が一層進む」を選択した割合が低くなっているのに対し、玉山地域では「農地が利用されず、耕作放棄地が増加する」を選択している割合が高くなっています。

（図表10-3 10年後の状況について 属性別）

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	2,105	5.4	50.4	26.8	65.1	28.6	8.9	2.2
年齢								
～30代	8	0.0	37.5	62.5	62.5	37.5	12.5	0.0
40代	58	5.2	51.7	27.6	65.5	34.5	12.1	3.4
50代	185	7.6	57.3	34.1	64.9	30.8	7.6	1.6
60代	696	4.6	55.2	30.2	71.6	33.9	7.5	1.7
70代	750	5.1	49.6	25.1	64.5	26.0	10.0	2.1
80代～	361	6.6	39.9	19.1	54.0	21.3	9.7	3.3
地域								
盛岡	907	4.5	49.9	23.8	59.4	27.0	11.6	2.6
都南	528	5.1	47.0	30.7	71.6	28.6	5.5	2.3
玉山	545	7.3	53.9	30.1	69.9	31.7	6.4	1.7

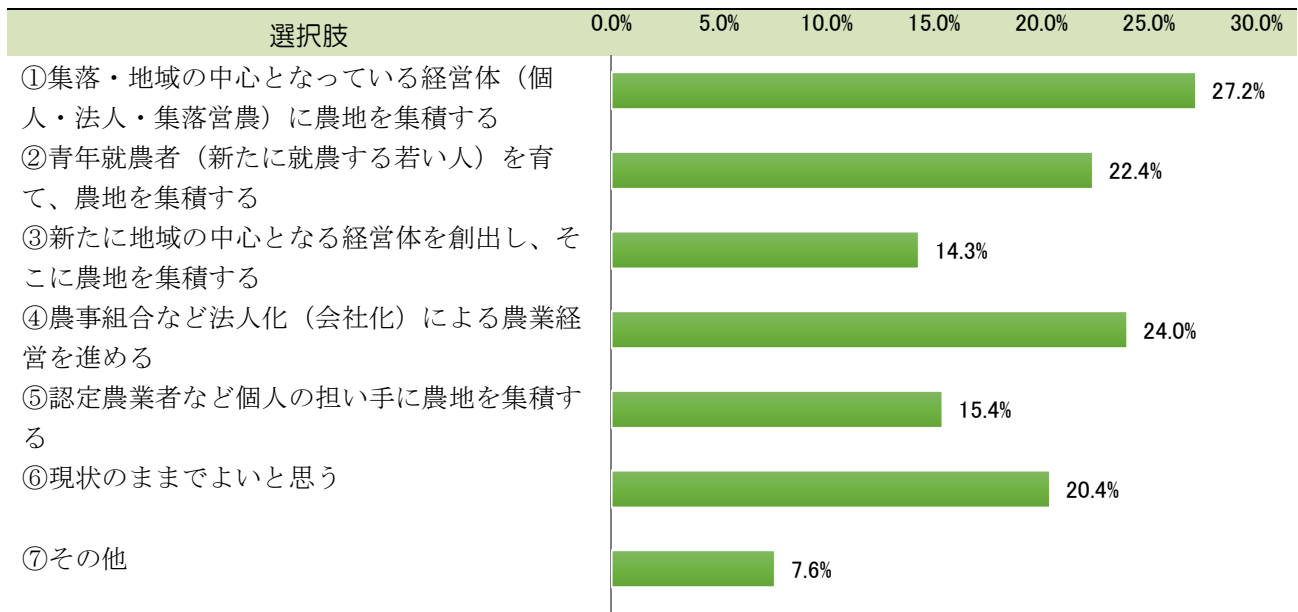
(11) 地域農業を維持するために必要な取組について（回答者数 2,105人）

問15 あなたの地域（農家組合、集落、または大字単位などの範囲）の農業を今後とも維持するためには、何が必要ですか？該当する項目全てに○印をお願いします。

・4人に1人が「集落・地域の中心となっている経営体（個人・法人・集落営農）に農地を集積する」（27.2%）

「農事組合など法人化（会社化）による農業経営を進める」が24.0%、「青年就農者（新たに就農する若い人）を育て、農地を集積する」が22.4%となっている一方で、「現状のままでよいと思う」が20.4%となっています。

（図表11-1 地域農業を維持するために必要な取組について）



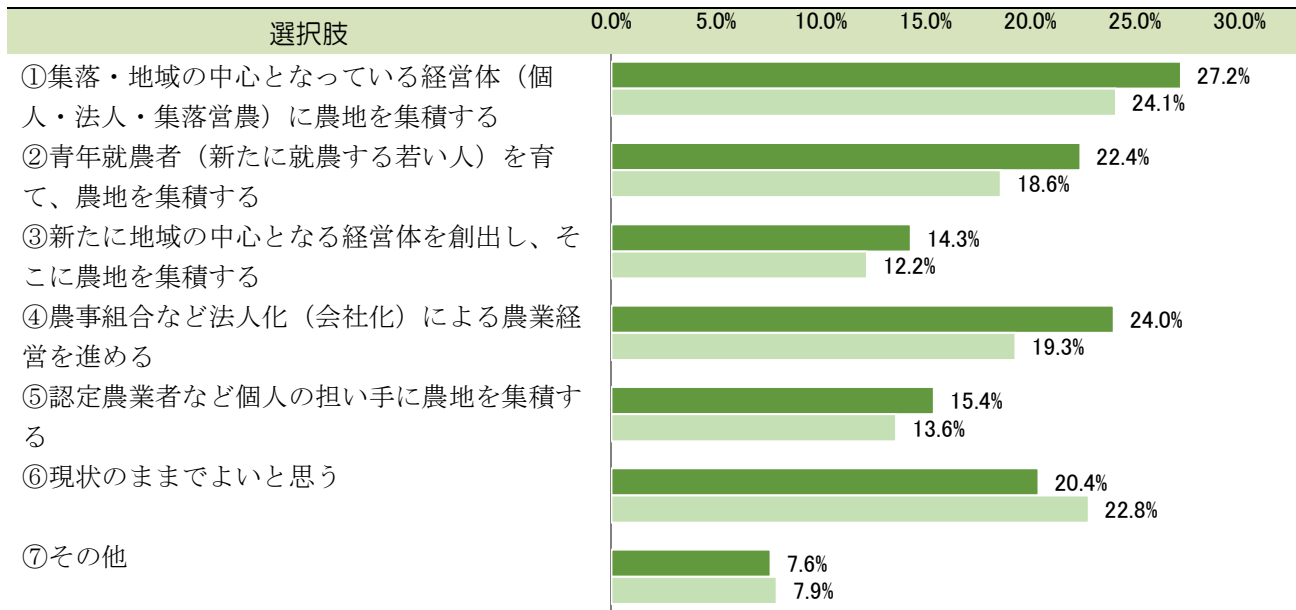
⑦その他

無農薬・無耕作の稲作確立、特色のある作物の栽培、企業誘致、法人化、基盤整備、アクセスの改善、公務員等の副業推進、分からない など

（前回調査結果との比較）

今回の調査では、「農事組合など法人化（会社化）による農業経営を進める」と答えた割合が4.7ポイント上昇し、「青年就農者（新規就農者）を育てる」と答えた割合が3.8ポイント上昇しています。

(図表11-2 地域農業を維持するために必要な取組について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・50代では、「農事組合など法人化（会社化）による農業経営を進める」と答えた割合が高くなっています。
- ・盛岡地域では、他の地域と比べて「現状のままでよいと思う」を選択している割合が高く、「集落・地域の中心となっている経営体に農地を集積する」などの取組を選択している割合が低くなっています。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「集落・地域の中心となっている経営体に農地を集積する」、「農事組合など法人化による農業経営を進める」などの取組を選択している割合が高くなっています。
- ・玉山地域では、他の地域と比べて「認定農業者など個人の担い手に農地を集積する」を選択している割合が高くなっています。

(図表11-3 地域農業を維持するために必要な取組について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	2,105	27.2	22.4	14.3	24.0	15.4	20.4	7.6
年齢								
～30代	8	25.0	25.0	12.5	25.0	25.0	37.5	12.5
40代	58	22.4	24.1	19.0	22.4	10.3	25.9	15.5
50代	185	30.8	28.6	17.3	31.9	15.7	17.8	8.6
60代	696	29.5	26.4	13.9	25.7	17.0	19.3	8.5
70代	750	27.6	20.1	14.3	22.4	14.9	19.5	6.1
80代～	361	20.5	16.1	13.3	20.2	14.1	25.2	6.4
地域								
盛岡	907	21.2	20.6	13.8	21.4	14.2	23.9	10.1
都南	528	35.2	25.6	14.2	32.4	11.6	15.7	5.9
玉山	545	31.4	22.2	15.2	21.5	22.0	17.8	5.3

(12) 青年就農者(新たに就農する若い人)について (回答者数 2,105人)

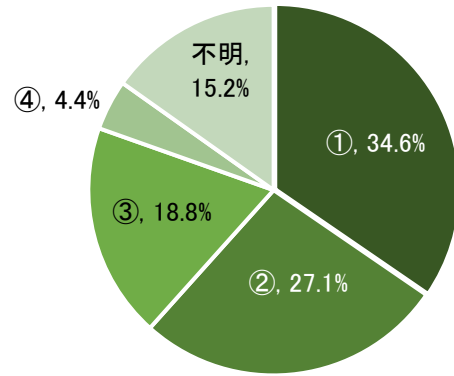
問16 あなたの集落に青年就農者(新たに就農する若い人)が必要だと思いますか? 該当する項目1つに○印をお願いします。

・半数以上が「今すぐ、または早い段階で確保する必要がある(①、②)」(61.7%)

一方で「特に必要ない」と答えた農家は18.8%となっています。

(図表12-1 青年就農者(新たに就農する若い人)について)

選択肢	構成比(%)
①現在が必要としていないが、将来を考 え早い段階で確保する必要がある	34.6
②今すぐ確保する必要がある	27.1
③特に必要ない	18.8
④その他	4.4
不明	15.1

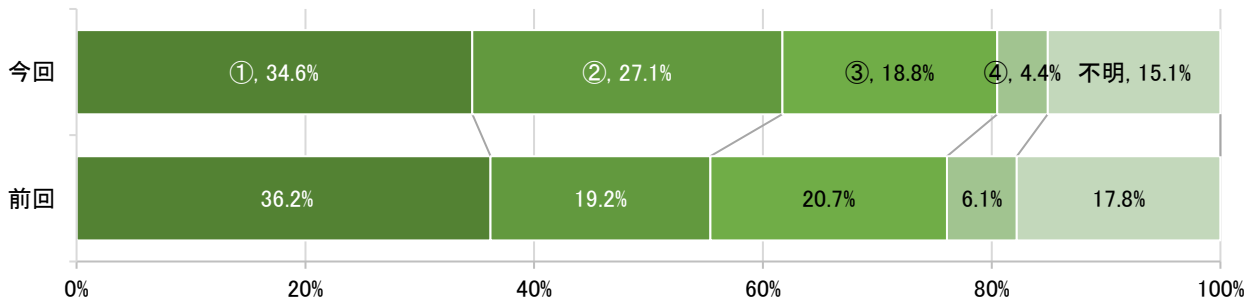


④その他

耕作放棄地を活用できる人、市職員の動員、青年がやりたいと思う農業スタイルの確立、不明 など

(前回調査結果との比較)

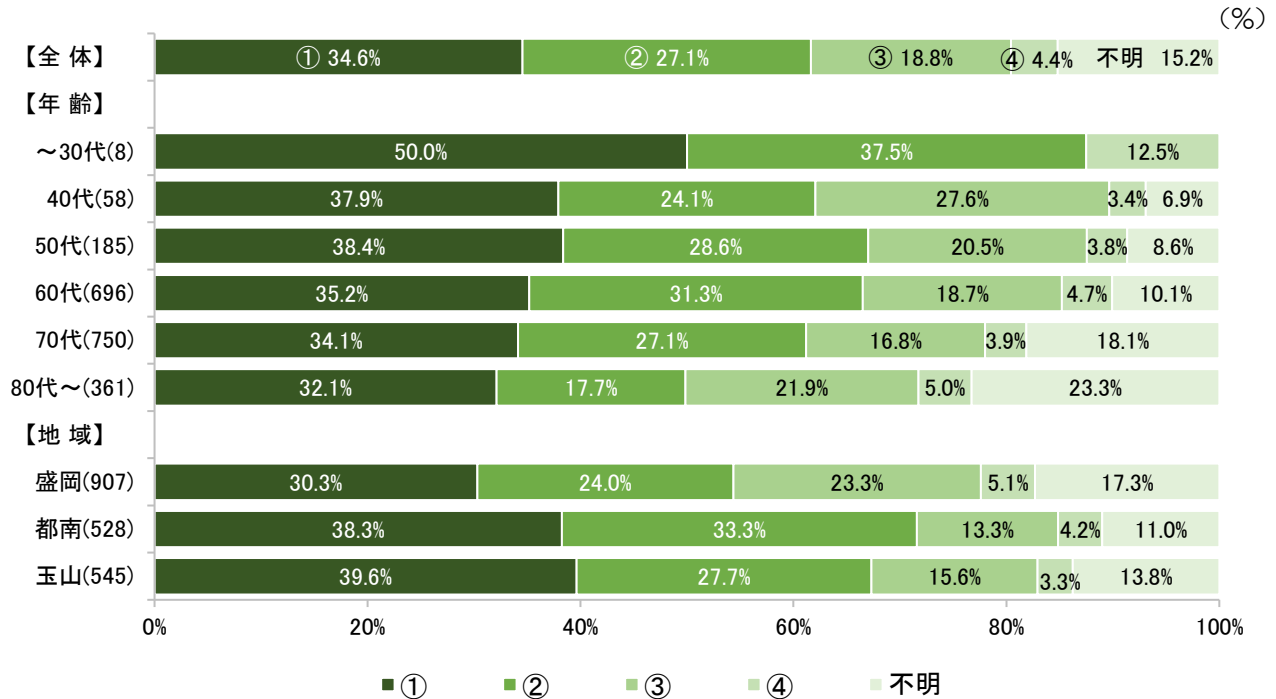
今回の調査では、「今すぐ確保する必要がある」と答えた割合が7.9ポイント上昇しています。



(属性別)

- ・若い年代ほど、「早い段階で確保する必要がある (①)」と答えた割合が高い傾向にあります。
- ・都南地域では、他の地域と比べて「今すぐ、または早い段階で確保する必要がある (①、②)」と答えた割合が高くなっています。

(図表12-2 青年就農者(新たに就農する若い人)について 属性別)



※ ()内の数値は回答者数です。

3 6次産業化（農商工連携）に関する取組について

（結果からみる傾向）

・全体としては、6次産業化（農商工連携）の関心は低く、認知度も低いですが、若い世代ほど取組への関心は高くなっている

6次産業化の取組状況については、「取り組んでいる、または将来取り組む意向がある」と答えた農家は1割程度でしたが、その中でも若い世代ほど、取組への関心が高くなっている一方で、「法改正に設備投資が追い付かず休止」といった意見もあったことから、取り組みやすい環境を整備することにより、関心がより高まるものと推測されます（図表13-1、13-2、13-3）。

また、地域によっても取組状況が異なっており、農家に取り組んでいる部門によって6次産業化への取り組みやすさが異なっていることが推測されます（図表2-3、13-3）。

・販路は、産地直売所が8割を占めるが、前回の調査と比べてインターネット通販が増加している

販路については、「産地直売所」への出荷が8割を占めていますが、比較的若い世代が「インターネット通販」に販路を見出しています。また、「インターネット通販」と並んで「スーパー」への出荷も見受けられます（図表14-1、14-2）。

今後の出荷希望先については、「産地直売所」を選択した割合が6割となっており、現在の販路と比べて2割減少しているのに対し、「コンビニエンスストア」と「インターネット通販」を選択している割合は上昇傾向にあることから、今後はより身近で手間やコストのかからない販路が望まれているものと推測されます（図表15-1、15-2、15-3）。

・販売の際には、情報発信や価格設定よりも、商品のおいしさや安全性、鮮度の良さなど、商品そのものへの工夫が行われている

販売の際には、約半数が「おいしさ」、「商品の安全性」、「鮮度の良さ」を選択しているのに対し、「産地や生産者に関する情報発信」や「競争力のある価格設定」を選択している割合は2～3割と低くなっており、情報発信よりも商品そのものへの工夫を重要視していることがわかります（図表16-1）。

その中でも、年代別にみると、70代は「おいしさ」と「商品の安全性」を、地域別にみると、玉山地域では「競争力のある価格設定」や「おいしさ」への工夫を重要視していることがわかります（図表16-3）。

・6次産業化に関する情報収集先は、JAが半数を占めるが、世代や地域によって異なる情報収集がされている

6次産業化に取り組むための情報収集先は、「JA」が半数を占めていますが、いずれの選択肢も増加傾向にあることから、前回の調査よりも多様な手段で情報収集がされていることがわかります。

特にも、年代が上がるにつれて「農業改良普及センター」の割合が高くなり、「インターネット」の割合が低くなる傾向がありますが、若い世代よりも多様な手段で情報収集していることが読み取れます。

また、都南地域では、他の地域と比べて「JA」や「いわて6次産業化支援センター」、「商談会・展示会」を選択している割合が高く、玉山地域では、「先進的な取り組みを行っている経営体」を選択している割合が高くなっています（図表17-1、17-2、17-3）。

(13) 6次産業化（農商工連携）の取組状況について（回答者数 1,584人）

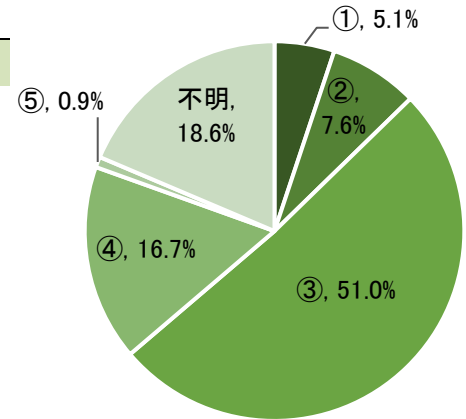
問17 あなたの経営における6次産業化（農商工連携）の取組状況について、該当する項目1つに○印をお願いします。

・「取り組んでいる、または将来取り組む意向がある」農家は1割程度（12.7%）

一方で「取り組む予定はない」と答えた農家は51.0%、「6次産業化を知らない」と答えた農家は、16.7%となっています。

（図表13-1 6次産業化（農商工連携）の取組状況について）

選択肢	構成比(%)
①今現在、取り組んでいる	5.1
②今は取り組んでいないが、近い将来、取り組む意向がある	7.6
③今は取り組んでいないし、今後もし取り組む予定はない	51.0
④6次産業化（農商工連携）とは何かを知らない	16.7
⑤その他	0.9
不明	18.6



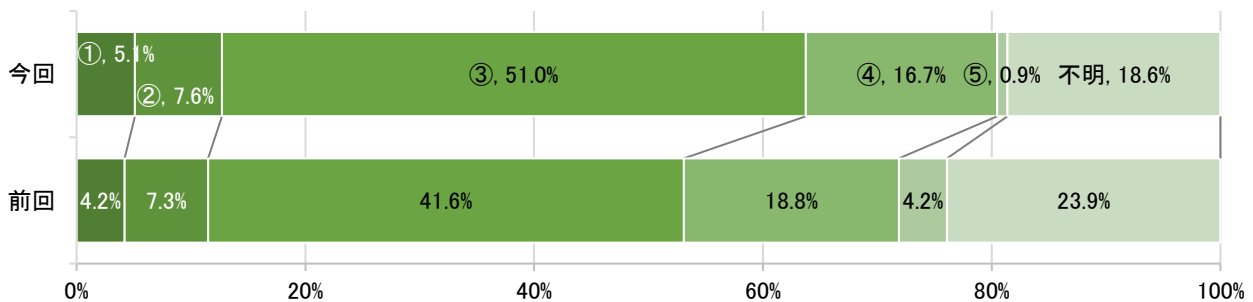
⑤その他

法改正に設備投資が追い付かず休止、小規模農家は難しい、中心となる人がいない など

（前回調査結果との比較）

前回調査と比べて、「6次産業化（農商工連携）とは何かを知らない」と答えた割合は減少した一方で、「今は取り組んでいないし、今後もし取り組む予定はない」と答えた割合が増加しています。

（図表13-2 6次産業化（農商工連携）の取組状況について 前回調査結果との比較）



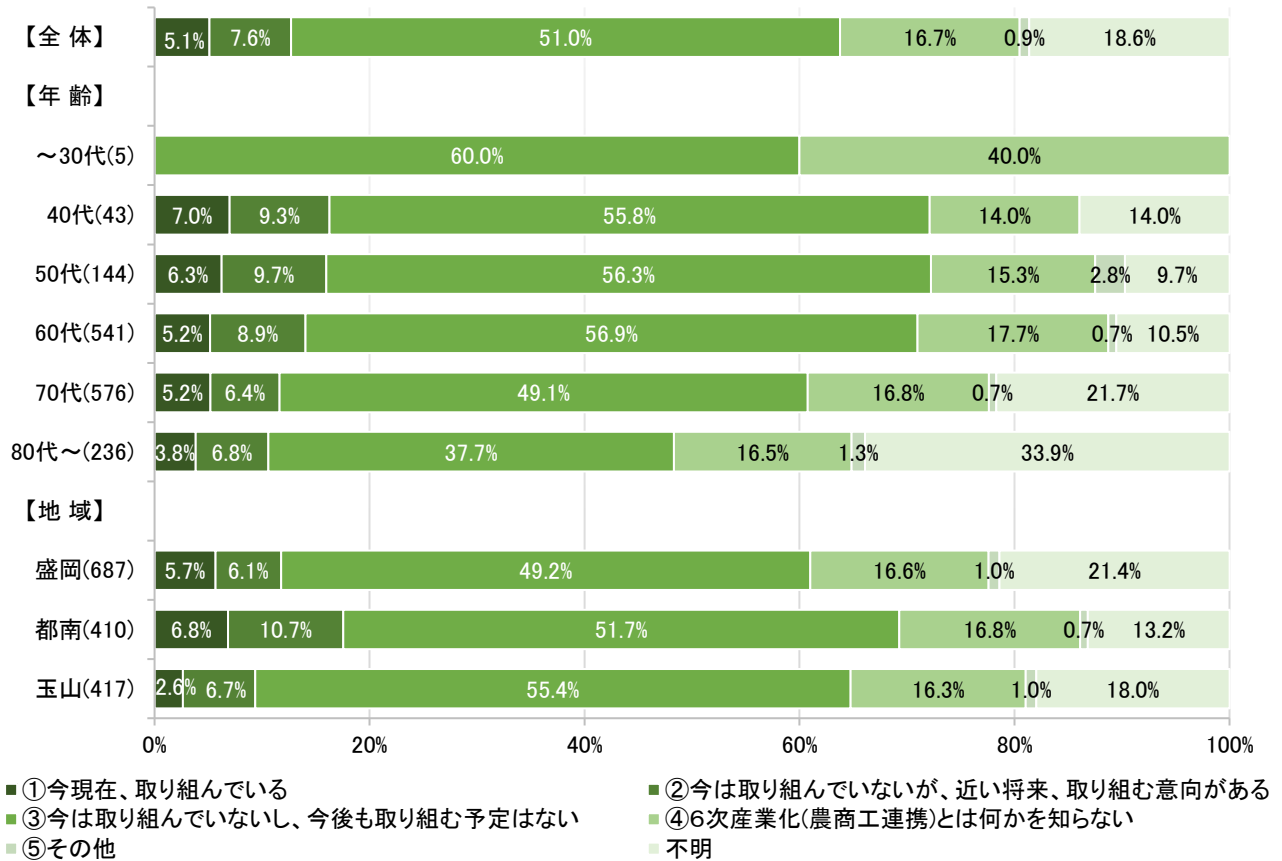
(属性別)

・若い年代ほど、「今現在、取り組んでいる」、「近い将来、取り組む意向がある」と答えた割合が高い傾向にあります。

・都南地域では、他の地域と比べて、「今現在、取り組んでいる」、「近い将来、取り組む意向がある」と答えた割合が高くなっています。

(図表13-3 6次産業化(農商工連携)の取組状況について 属性別)

(%)



※ ()内の数値は回答者数です。

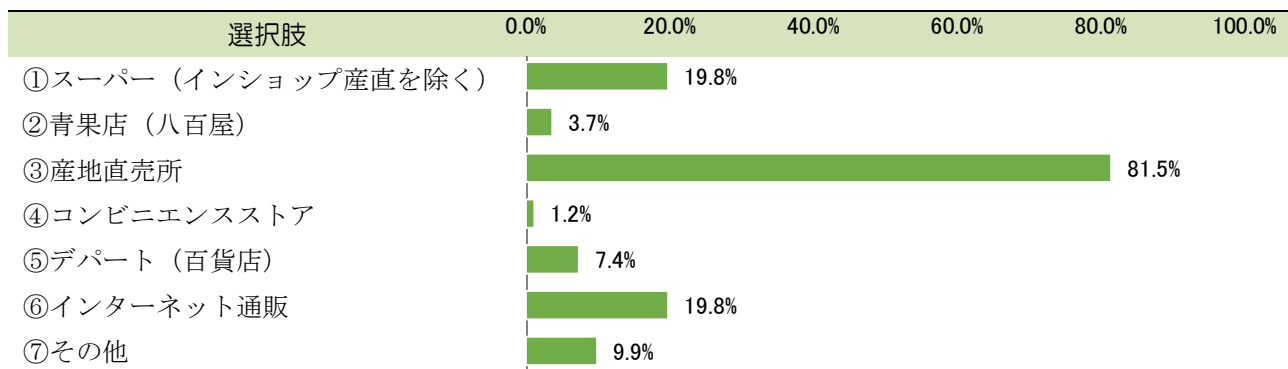
(14) 販路について (回答者数 81人)

問18 問17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等の販路について、該当する項目全てに○印をお願いします。

・ 8割が「産地直売所」へ出荷 (81.5%)

次いで、「スーパー」と「インターネット通販」がそれぞれ19.8%、「その他」が9.9%となっています。

(図表14-1 販路について)



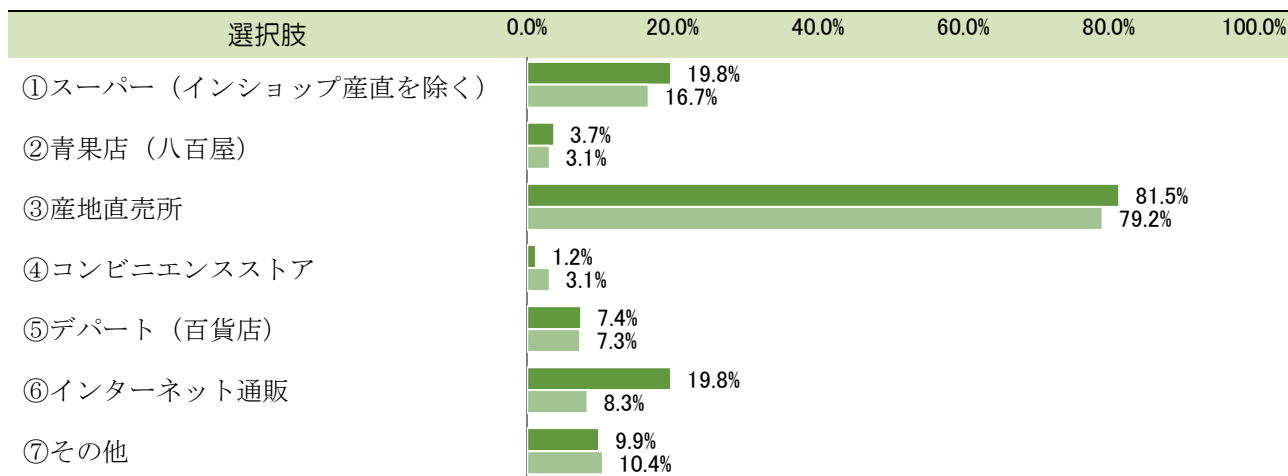
⑦その他

ふるさと納税、ケーキ店、無人販売所 など

(前回調査結果との比較)

前回調査と比べて、「インターネット通販」と答えた割合が11.5ポイント高くなっています。

(図表14-2 6次産業化 (農商工連携) の取組状況について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・全体的に「③産地直売所」へ出荷している割合が非常に高く、他の販路を選択している割合は低くなっていますが、60代では、「⑤デパート（百貨店）」を選択している割合が高くなっています。
- ・比較的若い年代は、「⑥インターネット通販」も販路としている傾向にあります。
- ・盛岡地域では、他の地域と比べて「①スーパー（インショップ産直を除く）」と「⑥インターネット通販」を選択している割合が高くなっています。

(図表14-3 販路について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	81	19.8	3.7	81.5	1.2	7.4	19.8	9.9
年齢								
～30代	0	-	-	-	-	-	-	-
40代	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3
50代	9	0.0	11.1	88.9	0.0	0.0	33.3	11.1
60代	28	21.4	0.0	82.1	0.0	14.3	25.0	14.3
70代	30	23.3	6.7	76.7	3.3	3.3	10.0	6.7
80代～	9	11.1	0.0	88.9	0.0	0.0	11.1	0.0
盛岡	39	23.1	5.1	74.4	2.6	10.3	23.1	12.8
都南	28	10.7	3.6	89.3	0.0	3.6	17.9	7.1
玉山	11	18.2	0.0	81.8	0.0	0.0	9.1	9.1

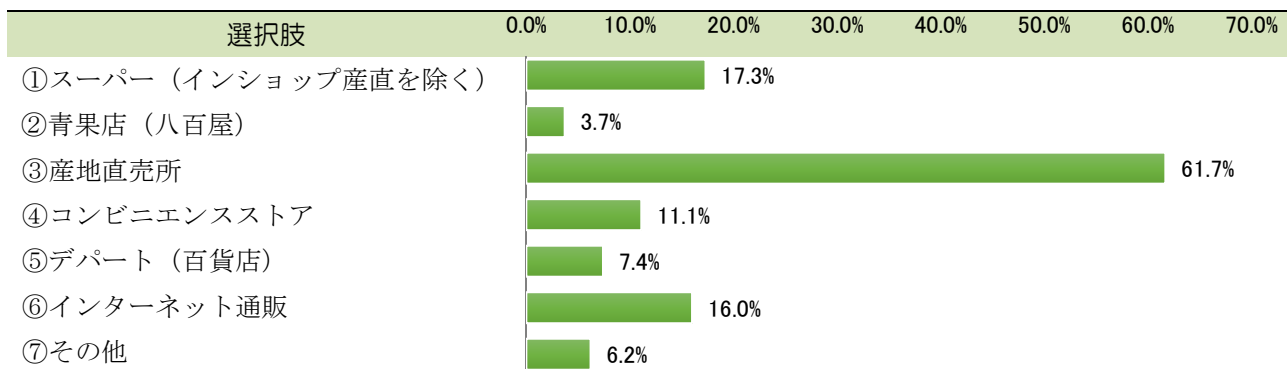
(15) 販路について（希望先）（回答者数 81人）

問19 問17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等を、今後、販売していきたいところについて、該当する項目全てに○印をお願いします。

・半数以上が「産地直売所」へ出荷希望（61.7%）

次いで、「スーパー」が17.3%、「インターネット通販」が16.0%となっています。

（図表15-1 販路について（希望先））



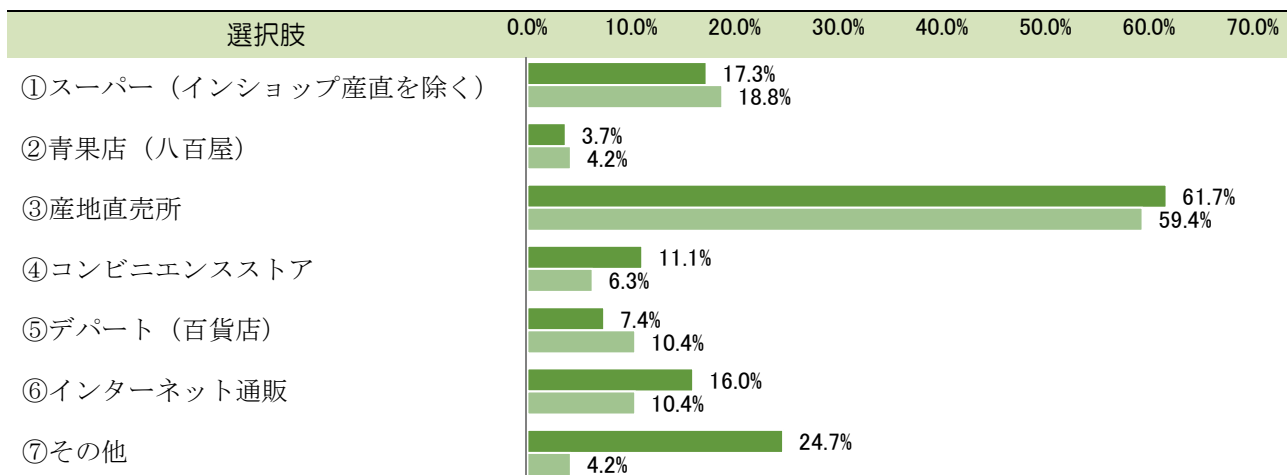
⑦その他

ケーキ屋、直販、学食

（前回調査結果との比較）

前回調査と比べて、「インターネット通販」と答えた割合が5.6ポイント、「コンビニエンスストア」と答えた割合が4.8ポイント高くなっています。

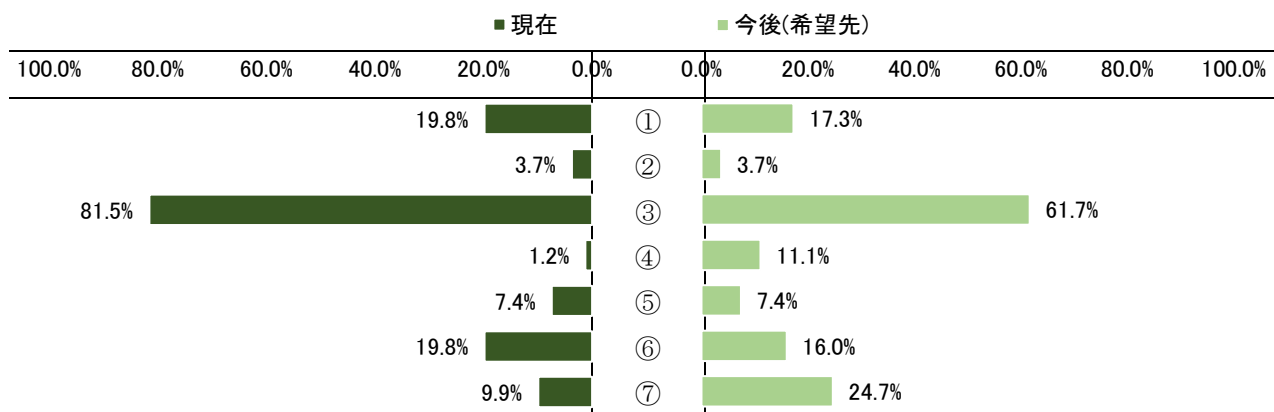
（図表15-2 販路について（希望先） 前回調査結果との比較）



（現在の販路との比較）

全体的な傾向に大きな違いはみられませんが、「③産地直売所」を選択している割合が19.8ポイント減少しているのに対し、「④コンビニエンスストア」と「⑦その他」を選択している割合が上昇しています。

（図表15-3 販路について（希望先） 現在の販路との比較）



（属性別）

- ・全体的に「③産地直売所」への出荷を希望している割合が高く、他の販路を選択している割合は低くなっていますが、70代では、「①スーパー」や「④コンビニエンスストア」などの他の販路を選択している割合が高くなっています。
- ・盛岡地域では、他の地域と比べて「③産地直売所」への出荷を希望している割合が低くなっていますが、玉山地域では「①スーパー」への出荷を希望している割合が高くなっています。

（図表15-4 販路について（希望先） 属性別）

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	81	17.3	3.7	61.7	11.1	7.4	16.0	24.7
年齢								
～30代	0	-	-	-	-	-	-	-
40代	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3
50代	9	11.1	11.1	77.8	0.0	11.1	22.2	0.0
60代	28	7.1	0.0	57.1	10.7	10.7	17.9	3.6
70代	30	30.0	6.7	63.3	20.0	3.3	16.7	10.0
80代～	9	11.1	0.0	55.6	0.0	11.1	0.0	0.0
地域								
盛岡	39	15.4	5.1	51.3	12.8	7.7	12.8	7.7
都南	28	14.3	0.0	71.4	10.7	7.1	17.9	3.6
玉山	11	27.3	9.1	72.7	9.1	0.0	18.2	9.1

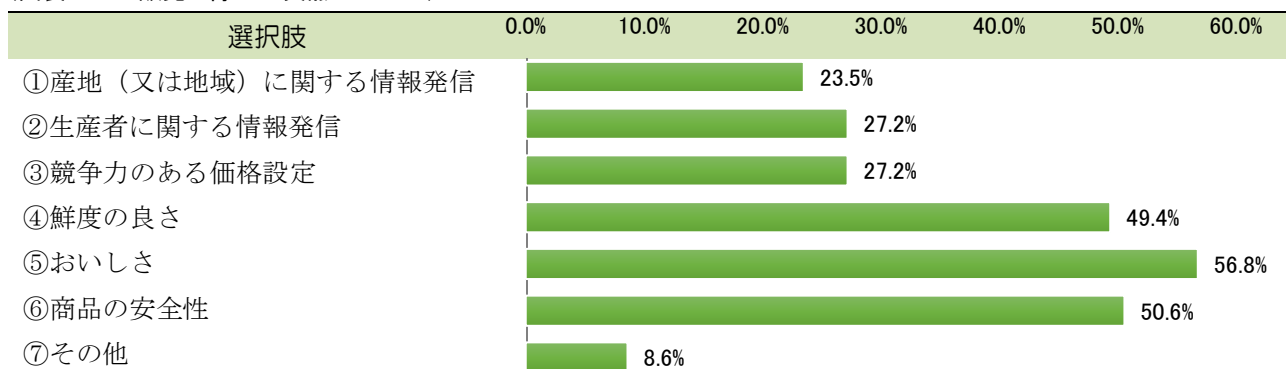
(16) 販売の際の工夫点について (回答者数 81人)

問20 問17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等を販売する際に工夫していることについて、該当する項目全てに○印をお願いします。

・半数以上が「おいしさ」(56.8%)に工夫

次いで、「商品の安全性」(50.6%)、「鮮度の良さ」(49.4%)となっています。

(図表16-1 販売の際の工夫点について)



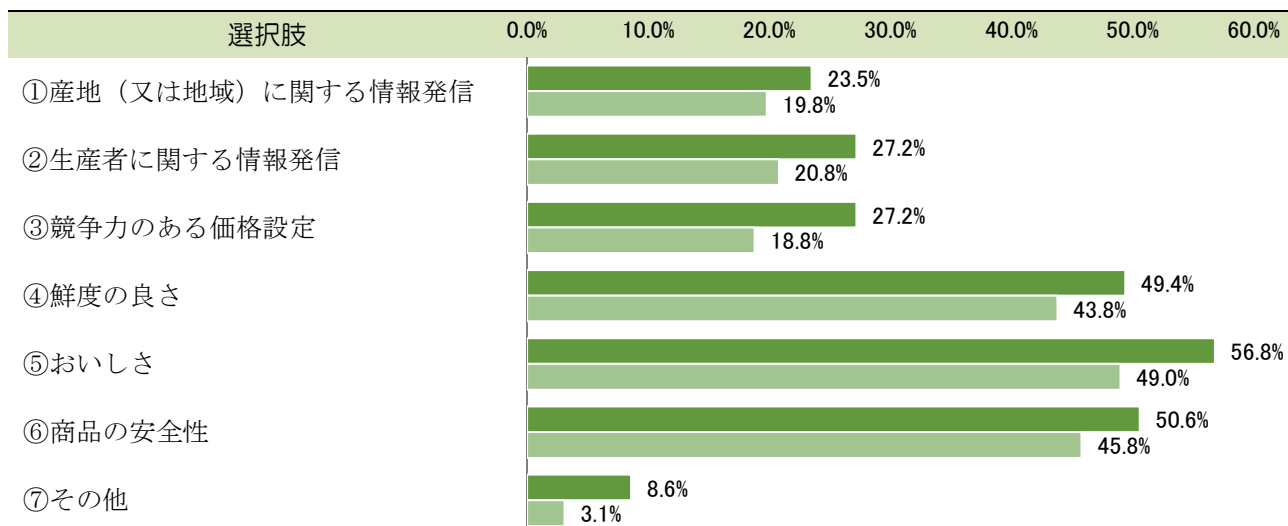
⑦その他

ラベルなどの表示、ストーリー性

(前回調査結果との比較)

前回調査と比べて、傾向に大きな違いはありませんが、全体的に割合が増加しています。

(図表16-2 販売の際の工夫点について 前回調査結果との比較)



(属性別)

- ・70代では、他の世代に比べて「⑥商品の安全性」を選択している割合が高くなっています。
- ・玉山地域では、情報発信（①、②）に関してはとても低いですが、他の地域に比べて「③競争力のあ
る価格設定」や「⑤おいしさ」を選択している割合が高くなっています。

(図表16-3 販売の際の工夫点について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	81	23.5	27.2	27.2	49.4	56.8	50.6	8.6
年齢								
~30代	0	-	-	-	-	-	-	-
40代	3	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3
50代	9	11.1	11.1	33.3	55.6	44.4	33.3	11.1
60代	28	28.6	35.7	17.9	50.0	57.1	50.0	10.7
70代	30	26.7	26.7	33.3	56.7	66.7	70.0	6.7
80代~	9	22.2	22.2	22.2	33.3	44.4	33.3	0.0
地域								
盛岡	39	20.5	28.2	30.8	43.6	53.8	41.0	15.4
都南	28	32.1	32.1	21.4	57.1	57.1	60.7	0.0
玉山	11	0.0	9.1	36.4	54.5	72.7	54.5	9.1

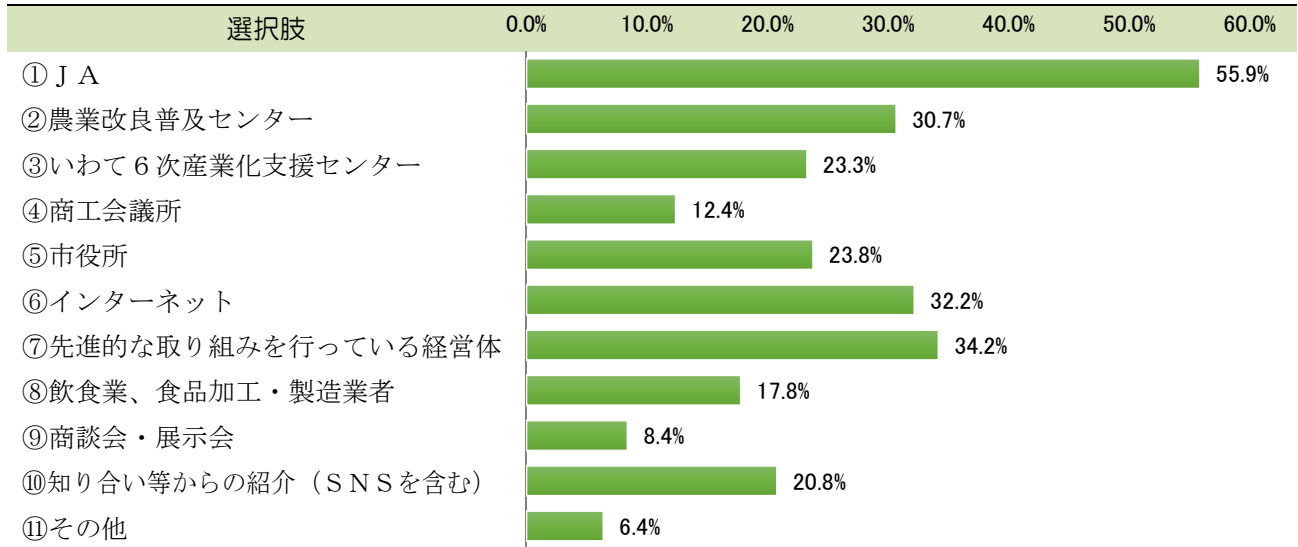
(17) 6次産業化（農商工連携）に関する情報収集先について（回答者数 202人）

問21 問17で①または②とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組むための情報収集先について、該当する項目全てに○印をお願いします。

・半数が「JA」から情報収集（55.9%）

次いで、「先進的な取り組みを行っている経営体」が34.2%、「インターネット」が32.2%となっています。

（図表17-1 6次産業化（農商工連携）に関する情報収集先について）



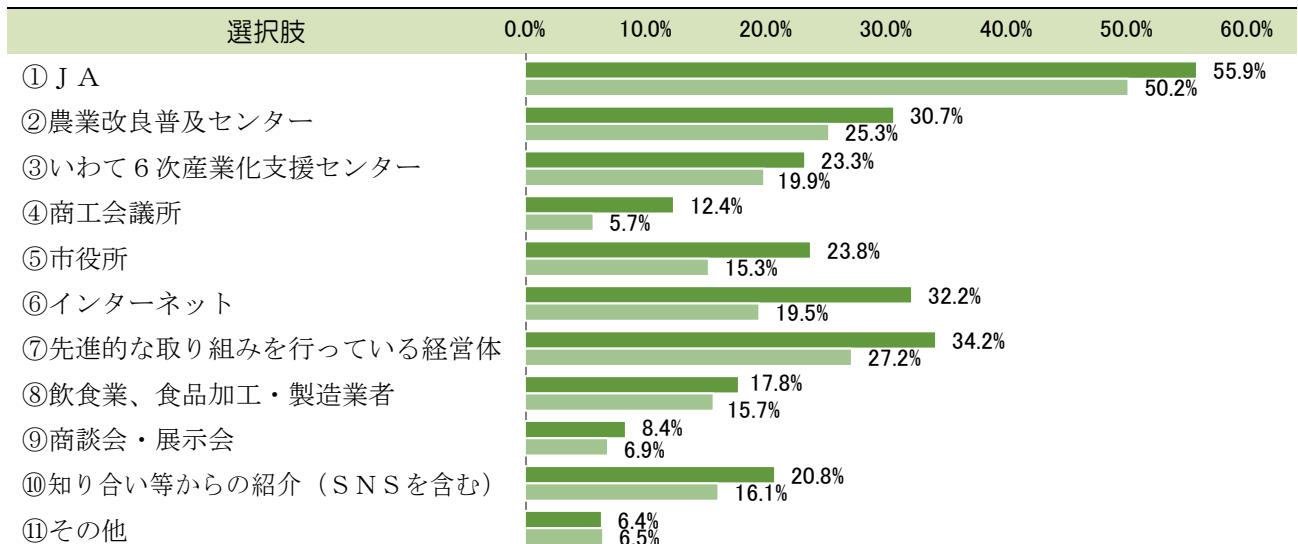
⑪ その他

消費者、情報誌、テレビ、産地直売所、各種組合・同好会 など

（前回調査結果との比較）

前回調査と比べて、「インターネット通販」と答えた割合が12.7ポイント高くなっています。

（図表17-2 6次産業化（農商工連携）に関する情報収集先について 前回調査結果との比較）



(属性別)

・年代が上がるにつれて、「②農業改良普及センター」を選択している割合が高くなっている一方で、若い年代ほど「⑥インターネット」を選択している割合が高くなっています。

・都南地域では、他の地域と比べて「①J A」や「③いわて6次産業化支援センター」、「⑨商談会・展示会」を選択している割合が高く、盛岡地域では、「⑦先進的な取り組みを行っている経営体」を選択している割合が高くなっています。

(図表17-3 6次産業化(農商工連携)に関する情報収集先について 属性別)

区分	回答者数 (人)	回答分布 (%)										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
全体	202	55.9	30.7	23.3	12.4	23.8	32.2	34.2	17.8	8.4	20.8	6.4
年齢												
～30代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40代	7	42.9	14.3	0.0	14.3	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3
50代	23	52.2	26.1	43.5	21.7	30.4	47.8	39.1	17.4	8.7	17.4	4.3
60代	76	59.2	26.3	25.0	15.8	23.7	35.5	35.5	25.0	10.5	19.7	7.9
70代	67	58.2	37.3	16.4	6.0	23.9	25.4	37.3	11.9	9.0	22.4	4.5
80代～	25	52.0	36.0	24.0	12.0	24.0	28.0	32.0	16.0	4.0	24.0	4.0
地域												
盛岡	81	50.6	28.4	23.5	11.1	25.9	34.6	38.3	21.0	7.4	22.2	7.4
都南	72	62.5	30.6	29.2	13.9	25.0	33.3	34.7	15.3	13.9	19.4	6.9
玉山	39	51.3	33.3	12.8	12.8	23.1	33.3	25.6	15.4	0.0	20.5	5.1

調査票

- 農業経営者のお名前とご住所、集落名等についてお伺いします。
(下の表に記入願います。)

氏名			
住所	〒 ー 盛岡市		
電話番号			
性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性	年齢 歳
集落名 (農家組合名)			
認定農業者	<input type="checkbox"/> 認定農業者である <input type="checkbox"/> 認定農業者ではない		
経営面積	水田:	a (自作地	a、借地 a、相対 a)
	畑地:	a (自作地	a、借地 a、相対 a)
経営の種類	<input type="checkbox"/> 個人経営 <input type="checkbox"/> 法人経営 <input type="checkbox"/> 全ての部門を集落営農で行っている <input type="checkbox"/> 集落営農であるが、一部個人経営の部門がある		

- あなたの経営についてお伺いします。
経営主の方がお答えください。

Q 1 あなたの農業経営は、次のどの項目に該当しますか？該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 農業収入だけである。(専業農家)
- ② 農業収入が、他の収入より多い。(第一種兼業農家)
- ③ 他の収入が、農業収入より多い。(第二種兼業農家)
- ④ 土地持ち非農家である。(農地は所有しているが、自分では耕作していない。)

※④を選択した方は、以降の設問は「*」が付記してあるもののみ回答をお願いします。

Q 2

あなたの経営体が現在取り組んでいる部門はなんですか？右側の【記入例】を参考に、収入の多い順に1～3の番号を口内に記入してください。

- ① 稲作 (主食用米)
- ② 小麦
- ③ 大豆
- ④ 野菜
- ⑤ 花き
- ⑥ 果樹
- ⑦ 飼料作物 (飼料用米、牧草、デントコーンなど)
- ⑧ 畜産
 - 肉用牛 (黒毛・短角)
 - 乳用牛 (ホルス・ジャージー)
 - 鳥 ()
 - 馬 ()
 - その他 ()
- ⑨ 販売していない(自家用のみ)
- ⑩ その他 ()

【記入例】

- 1 ① 稲作 (主食用米)
- ② 小麦
- ③ 大豆
- ④ 野菜
- ⑤ 花き
- ⑥ 果樹
- ⑦ 飼料作物 (飼料用米、牧草、デントコーンなど)
- 2 ⑧ 畜産
 - 肉用牛 (黒毛・短角)
 - 乳用牛 (ホルス・ジャージー)
 - 鳥 ()
 - 馬 ()
 - その他 ()
- ⑨ 販売していない(自家用のみ)
- 3 ⑩ その他 (作業受託(水稲))

*Q 3

あなたの農地の所在地について、該当する項目全てに○印をお願いします。

- ① 自分が住んでいる集落のみ。
- ② 盛岡市内の複数集落にまたがっている。(集落名:)
- ③ 盛岡市外に農地がある。(市町村名:)
- ④ その他()

Q 4

あなたの経営について、該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 全て自分(家族)の経営である。
- ② 農作業を請け負ったり、農地を借りている。
- ③ 作業の一部または全部を委託している。
- ④ 農地を全て貸している。

Q 5

あなたの経営は集落・地域の中でどのような位置づけだと思いますか？該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 地域の中心となる経営体である。
- ② 今は地域の中心となる経営体ではないが、将来的には目指している。
- ③ 今は地域の中心となる経営体ではなく、将来的にも考えていない。
- ④ その他()

Q 6 あなたの農業後継者についてお聞きます。該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 今現在、農業後継者が専従で農業に従事している。
- ② 今現在、農業後継者が兼業で農業に従事している。
- ③ 今は従事していないが、近い将来、専業で後継者となる家族がいる。
- ④ 今は従事していないが、近い将来、兼業で後継者となる家族がいる。
- ⑤ 農業後継者はいない。
- ⑥ その他()

Q 7 現在の補助労働力(臨時雇用、アルバイト)についてお聞きます。該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 足りており、将来的にも確保できる見込みである。
- ② 現在は足りているが、いずれは不足する見込みである。
- ③ すでに不足している。
- ④ 補助労働力を活用していない。

Q 8 あなたは今後、5年以内にご自身の経営をどのようにしていく予定ですか？該当する項目1つに○印をお願いします。

- ① 農地を購入して規模を拡大していく。 → Q 9 へお進みください。
- ② 農地を借りて規模を拡大していく。 → Q 9 へお進みください。
- ③ 農作業を受託し規模を拡大していく。 → Q 9 へお進みください。
- ④ 現状維持
- ⑤ 農地は貸さずに、農作業の一部または全部を委託する。 → Q 10、11へお進みください。
- ⑥ 農地を一部貸し、自身の経営を縮小する。 → Q 10、11へお進みください。
- ⑦ 農地を全て貸し出し、自身で生産は行わない。 → Q 10、11へお進みください。
- ⑧ 農地を売却するなどして離農する。 → Q 10へお進みください。
- ⑨ その他()

Q 9 Q8で①～③とお答えいただいた方にお尋ねします。どのぐらい拡大したいですか？

所在地	地目	面積(m ²)	希望賃料(貸借の場合)	区分
(例) 盛岡市上太田地区	田	20,000	5,000円/10a	購入・貸借 [*] ・作業受託
				購入・貸借 [*] ・作業受託
				購入・貸借 [*] ・作業受託

※貸借の場合は、農地中間管理機構を通じた借入を希望 する ・ しない (どちらかに○)

Q 10 Q8で⑤～⑧とお答えいただいた方にお尋ねします。規模縮小や離農したい理由は何ですか？該当する項目全てに○印をお願いします。

- ① 高齢や病気等で働けないから。
- ② 農業後継者がいないから。
- ③ 農業に魅力がないから。
- ④ 機械の更新が高額でできないから。
- ⑤ 重労働の割には収入が不安定だから。
- ⑥ その他()

***Q11** 盛岡市内の農地で貸したい農地がありますか？固定資産台帳又は農地台帳をご覧の上記入してください。記入に当たっては、事前に別添の「意向調査Q11と人・農地プランについて」をお読みの上、同意欄に○印をお願いします。

次の情報について、人・農地プランに掲載することに同意します。

同意欄

所在地番	地目	面積(m ²)	現状	希望賃料	農地中間管理機構を通じた契約
(例) 盛岡市肴町2-29	田	2,980	主食用米	3,000円/10a	<input checked="" type="checkbox"/> 希望する・しない
					<input type="checkbox"/> 希望する・しない
					<input type="checkbox"/> 希望する・しない

***Q12** 今後概ね5年間の農地の転用計画についてお聞きします。農地以外へ転用したい農地がありますか？
 ※本問の集計結果は将来の農地面積の増減値の参考とするものであって、記載いただいた農地を農業振興地域の農用地区域から除外するものではありません。

土地の所在地(または集落名)	面積(m ²)	現況地目	転用後地目	時期
(例) 盛岡市内丸12-2	1,000	畑	分家住宅	平成31年頃

Q13 あなたが今後、ご自身の経営に必要と考える取り組みは何ですか？該当する項目全てに○印をお願いします。

- ① 農地の規模拡大
- ② 生産コストの低減
- ③ 経営の複合化(新たな作物の導入など)
- ④ 6次産業化・高付加価値化(加工や直販など)
- ⑤ スーパーL資金等の制度資金を利用したの事業拡大
- ⑥ 現状で耕作放棄地となっている農地を再利用しての規模拡大
- ⑦ 新規就農希望者(研修生)の受け入れ
- ⑧ 認定農業者となる
- ⑨ 集落内外から雇用を行う
- ⑩ 法人化する
- ⑪ 経営部門の一部廃止(例: 水稻部門を廃止し、畑作のみ経営を続ける。)
- ⑫ 経営移譲(世代交代)
- ⑬ 海外輸出
- ⑭ 特にない
- ⑮ その他()

Q18

Q17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等の販路について、該当する項目全てに○印をお願いします。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ① スーパー（インショップ産直を除く。） | <input type="checkbox"/> ② 青果店（八百屋） |
| <input type="checkbox"/> ③ 産地直売所 | <input type="checkbox"/> ④ コンビニエンスストア |
| <input type="checkbox"/> ⑤ デパート（百貨店） | <input type="checkbox"/> ⑥ インターネット通販 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ その他（ | ） |

Q19

Q17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等を、今後、販売していきたいところについて、該当する項目全てに○印をお願いします。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ① スーパー（インショップ産直を除く。） | <input type="checkbox"/> ② 青果店（八百屋） |
| <input type="checkbox"/> ③ 産地直売所 | <input type="checkbox"/> ④ コンビニエンスストア |
| <input type="checkbox"/> ⑤ デパート（百貨店） | <input type="checkbox"/> ⑥ インターネット通販 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ その他（ | ） |

Q20

Q17で①とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組んだ商品等を販売する際に工夫していることについて、該当する項目全てに○印をお願いします。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ① 産地（又は地域）に関する情報発信 | <input type="checkbox"/> ② 生産者に関する情報発信 |
| <input type="checkbox"/> ③ 競争力のある価格設定 | <input type="checkbox"/> ④ 鮮度の良さ |
| <input type="checkbox"/> ⑤ おいしさ | <input type="checkbox"/> ⑥ 商品の安全性 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ その他（ | ） |

Q21

Q17で①または②とお答えいただいた方にお尋ねします。6次産業化に取り組むための情報収集先について、該当する項目全てに○印をお願いします。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> ① JA | |
| <input type="checkbox"/> ② 農業改良普及センター | |
| <input type="checkbox"/> ③ いわて6次産業化支援センター（岩手県中小企業団体中央会） | |
| <input type="checkbox"/> ④ 商工会議所 | |
| <input type="checkbox"/> ⑤ 市役所 | |
| <input type="checkbox"/> ⑥ インターネット | |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 先進的な取り組みを行っている経営体 | |
| <input type="checkbox"/> ⑧ 飲食業、食品加工・製造業者 | |
| <input type="checkbox"/> ⑨ 商談会・展示会 | |
| <input type="checkbox"/> ⑩ 知り合い等からの紹介（SNS等を含む。） | |
| <input type="checkbox"/> ⑪ その他（ | ） |

ご協力ありがとうございました。

不明な点等については下記問い合わせ先まで連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

盛岡地域：盛岡市農林部農政課 農政企画係 TEL：019-626-7540

玉山地域：玉山総合事務所産業振興課 農政商工係 TEL：019-683-3852